

八尾市市民活動ネットワークセンター
「つどい」の充実に向けてのアンケート調査
【つどい登録団体】

<<目 次>>

I. 調査の概要.....	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の方法	1
(1) 調査対象.....	1
(2) 調査方法.....	1
(3) 回収結果.....	1
(4) 調査期間.....	1
(5) 集計結果について	1
II. 集計結果	2
1. 団体概要	2
(1) 設立年度.....	2
(2) 団体の種別.....	2
(3) 主な活動分野	3
(4) 活動拠点	4
(5) 活動頻度.....	4
(6) 予算規模.....	5
(7) 主な収入	5
(8) 専従スタッフの有無.....	6
(9) 主に活動されている方の年代.....	6
2. 団体代表としての考えや活動状況について	7
(1) 団体設立にあたっての課題(問1)	7
(2) 活動の“やりがい”を感じる時(問2)	8
(3) 代表として抱えている課題(問3)	9
(4) 代表として抱えている課題を解決するために行っている取組(問3)	10
(5) 団体の設立目的の達成状況(問4)	12
(6) 団体の設立目的の達成状況・その理由(問4)	13
3. 団体の活動状況や活動に関する課題について	18
(1) 団体の人材に関する課題(問5).....	18
(2) 団体の人材に関する課題を解決するために行っている取り組み(問5)	19
(3) 団体に参加してほしい人材(問6).....	21
(4) 広報や参加者に関する課題(問7).....	22
(5) 広報や参加者に関する課題を解決するために行っている取組(問7)	23
(6) 情報発信手段(問8)	25
(7) 団体の運営に関する課題(問9).....	26
(8) 団体の運営に関する課題を解決するために行っている取組(問9).....	27
(9) 資金確保のためにしている活動(問10)	29
(10) 八尾市市民活動支援基金事業の利用状況	30
(11) 今後、力を入れたい取組(問12)	32

4. 「つどい」への期待・要望	33
(1) 「つどい」が果たす役割の重要度(問13)	33
(2) セミナーや相談について	34
(3) 活動にあたって必要となる情報や情報発信について	35
(4) 活動にあたって必要となる資金の確保について(問19)	36
(5) 市民活動に関わる人材の育成について	37
5. 多様な団体との連携協力について	38
(1) 多様な団体との連携協力状況	38
(2) 地域活動団体の活動状況の認知度(問23)	42
(3) 地域分権の取組の認知度(問24)	42
(4) 地域活動団体との連携協力の必要性	43
(5) 地域活動団体との連携協力のために必要な取組(問26)	44
(6) 地域活動団体等と連携協力する場合に提供できること(問26)	45
(7) 行政との協働状況(問27)	48
(8) 行政と協働して「良かったこと」「苦勞したこと」「工夫したこと」、「協働しない理由」「協働できない理由」など(問27)	50
(9) 市民活動の活性化や「つどい」の今後のあり方等に関する意見(問28)	53

I. 調査の概要

1. 調査の目的

八尾市では、平成16年に八尾市市民活動ネットワークセンター「つどい」を設置し、情報提供や相談、会議スペースや機材の貸出を通じて、市民活動の支援に取り組んできた。また、平成23年度から開始した八尾市第5次総合計画において、「地域分権」の考え方のもと、「みんなでつくる八尾」をまちづくりの目標の一つに掲げ、市民活動のより一層の活発化をめざしている。

上記の背景から、今後市民活動ネットワークセンター「つどい」の取り組みのより一層の充実を図るための調査研究を行うこととし、その一環として、「つどい」に登録している市民活動団体へのアンケート調査を実施した。

2. 調査の方法

(1) 調査対象

八尾市市民活動ネットワークセンター「つどい」の登録市民活動団体

(2) 調査方法

郵送配布・郵送回収

(3) 回収結果

配 布 数 : 272票

回 収 数 : 111票

有効回答数 : 110票 (有効回答率 40.4%)

(4) 調査期間

平成24年9月28日(発送)～平成24年10月12日

(5) 集計結果について

「N＝」は当該設問の回答者数を表しており、回答割合を算出する際の母数である。

なお、集計に当たっては、小数点第2位以下を四捨五入しているため、回答割合の合計は必ずしも100%にはならない。

また、複数回答の設問では、回答割合の合計は100%を上回ることがある。

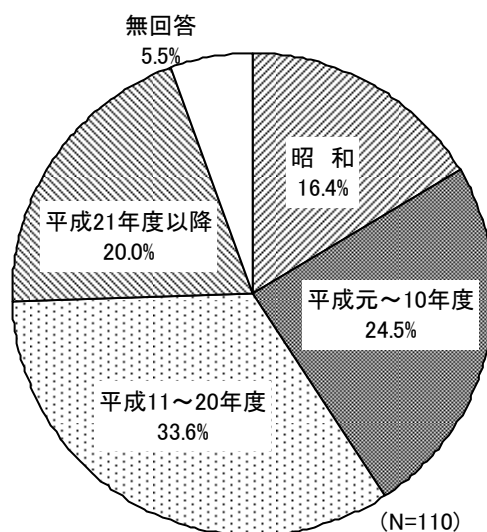
Ⅱ. 集計結果

1. 団体概要

(1) 設立年度

・設立年度は、昭和が16.4%、平成元～10年度が24.5%、平成11～20年度が33.6%、平成21年度以降が20.0%と多様である。

図表 1 設立年度

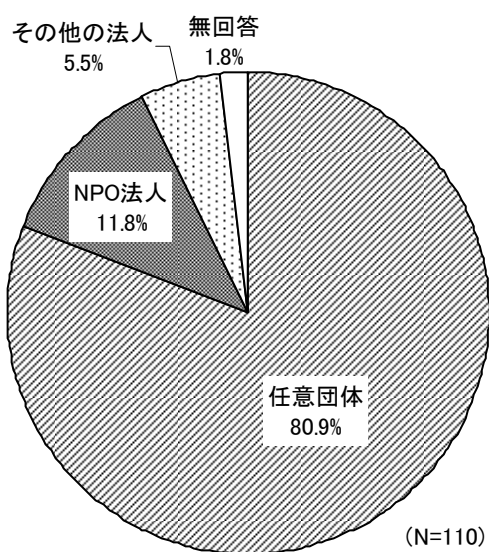


(2) 団体の種別

a) 団体の種別

・任意団体が80.9%を占めている。NPO法人は11.8% (13団体) である。

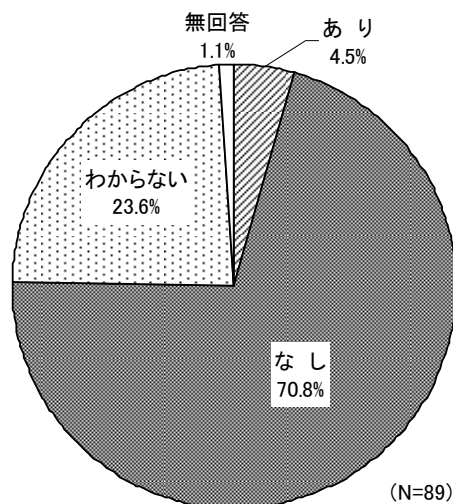
図表 2 団体の種別



b) NPO法人の法人格の取得意向

・任意団体のうち、NPO法人の法人格の取得を考えているのは4.5%(4団体)である。

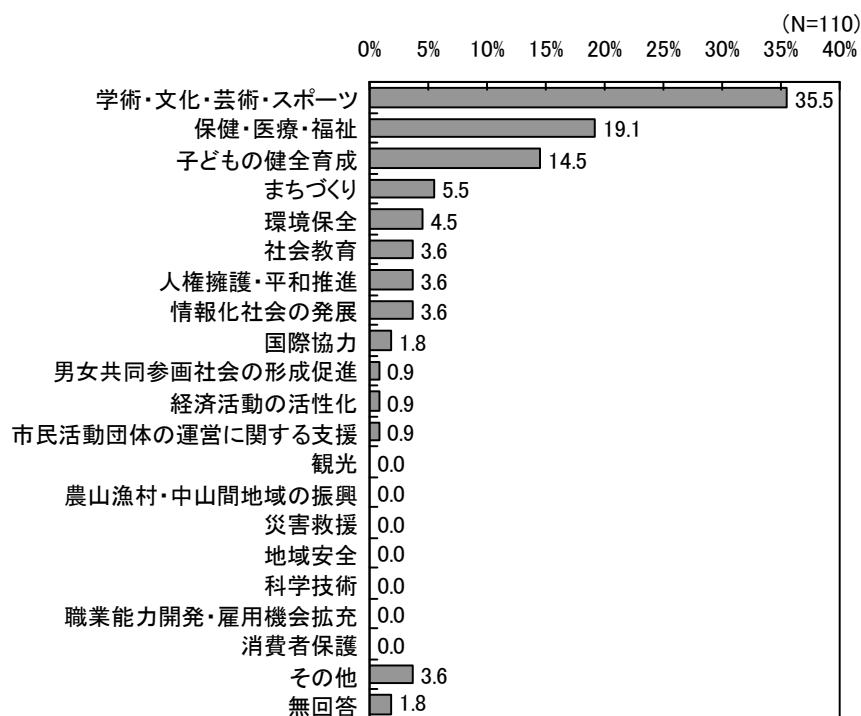
図表 3 NPO法人の法人格の取得意向(任意団体ベース)



(3) 主な活動分野

・「学術・文化・芸術・スポーツ」が35.5%と最も多く、次いで「保健・医療・福祉」19.1%、「子どもの健全育成」14.5%となっている。観光など7分野をあげる団体はみられない。

図表 4 主な活動分野



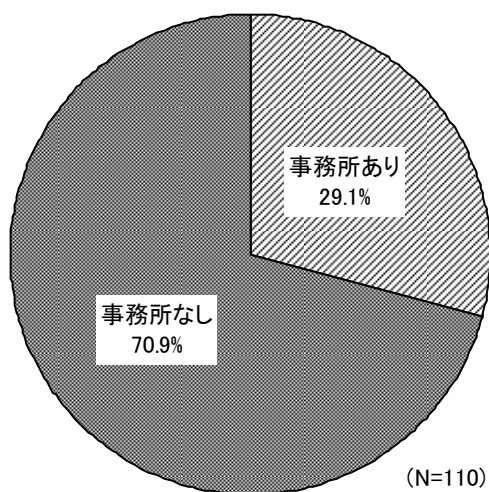
【「その他」の回答内容】

- ・ 良い人間関係の心づくり
- ・ 包括的支援組織

(4) 活動拠点

・事務所を持っている団体は29.1%となっている。

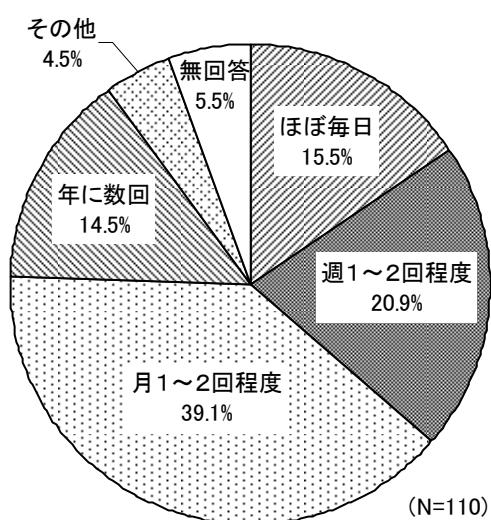
図表 5 活動拠点



(5) 活動頻度

・「月1～2回程度」活動している団体が39.1%と最も多く、次いで「週1～2回程度」が20.9%、「ほぼ毎日」が15.5%と多様である。

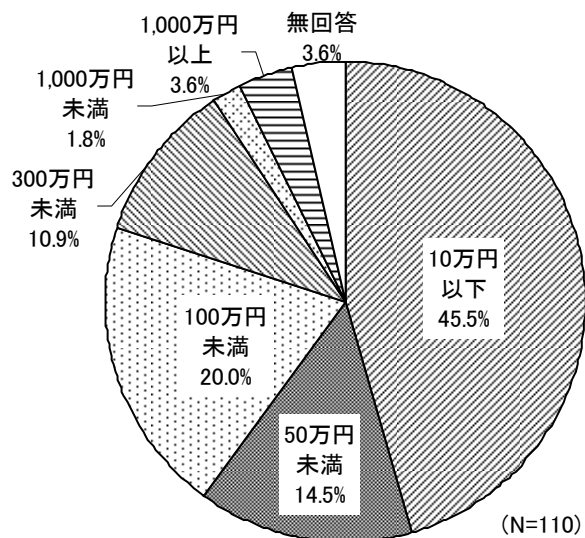
図表 6 活動頻度



(6) 予算規模

・「10万円以下」の予算で活動している団体が45.5%となっている。

図表 7 予算規模(2011年度)

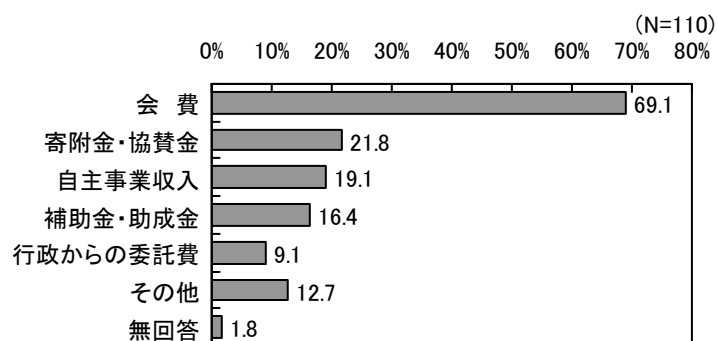


(7) 主な収入

・「会費」が69.1%と最も多く、次いで「寄附金・協賛金」が21.8%、「自主事業収入」が19.1%となっている。

・また、「その他」のうち、3団体が「収入はない」と回答している。

図表 8 主な収入(3つまで回答)



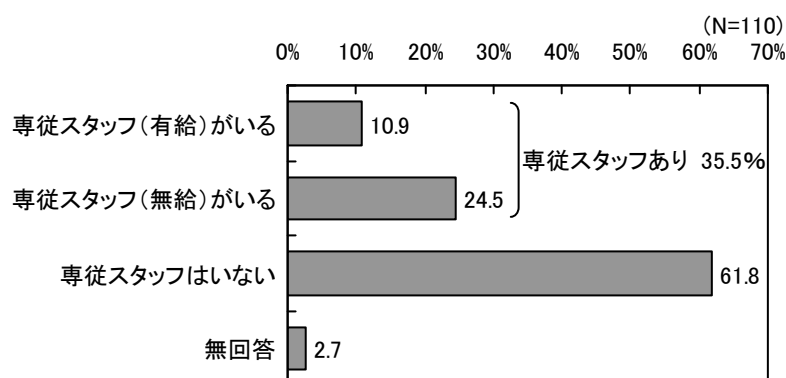
【「その他」の回答内容】

- ・アルミ缶回収など。
- ・お礼。
- ・謝金。
- ・参加者が適宜に払う（会費制ではない）。
- ・参加費。
- ・必要に応じ徴収。
- ・ボランティアの交通費程度。
- ・自己負担。

(8) 専従スタッフの有無

・専従スタッフがいる団体(有給もしくは無給)は35.5%であり、専従スタッフがいらない団体が61.8%となっている。

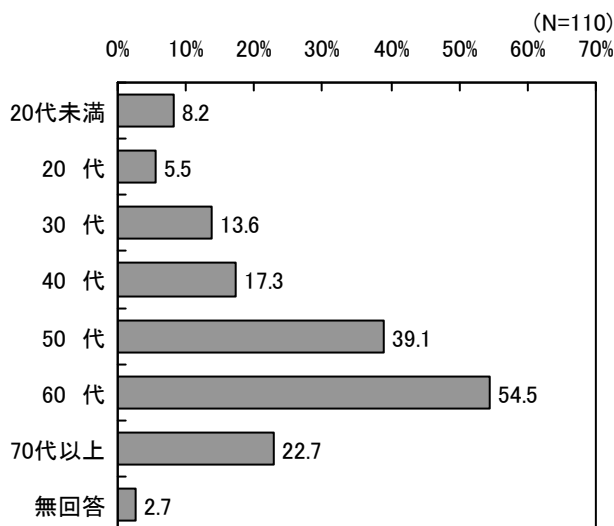
図表 9 専従スタッフの有無(複数回答)



(9) 主に活動されている方の年代

・「60代」が54.5%と最も多く、次いで「50代」が39.1%、「70代以上」が22.7%となっている。

図表 10 主に活動されている方の年代(2つまで回答)

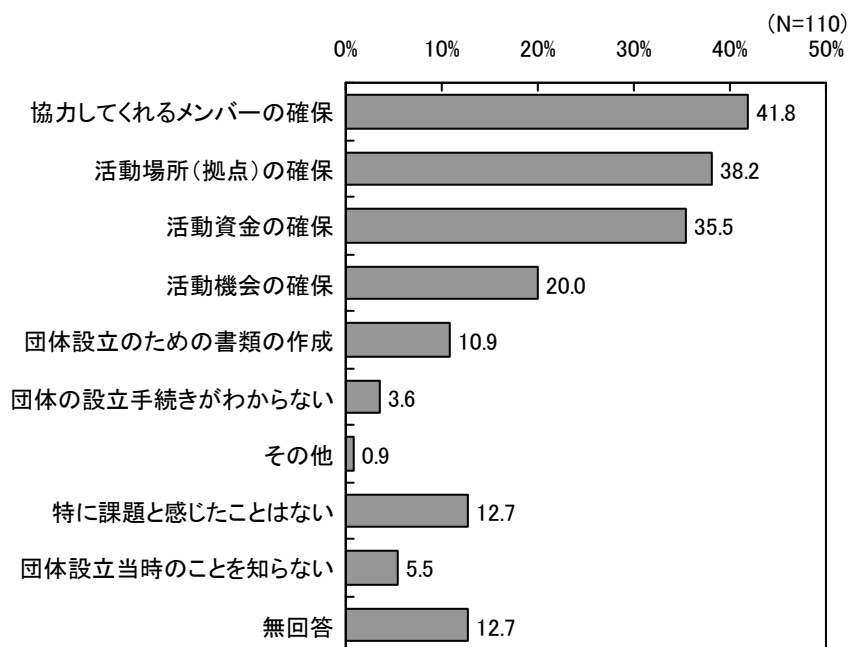


2. 団体代表としての考えや活動状況について

(1) 団体設立にあたっての課題（問1）

・「協力してくれるメンバーの確保」が41.8%と最も多く、次いで「活動場所（拠点）の確保」が38.2%、「活動資金の確保」が35.5%となっている。

図表 11 団体設立にあたっての課題（3つまで回答）



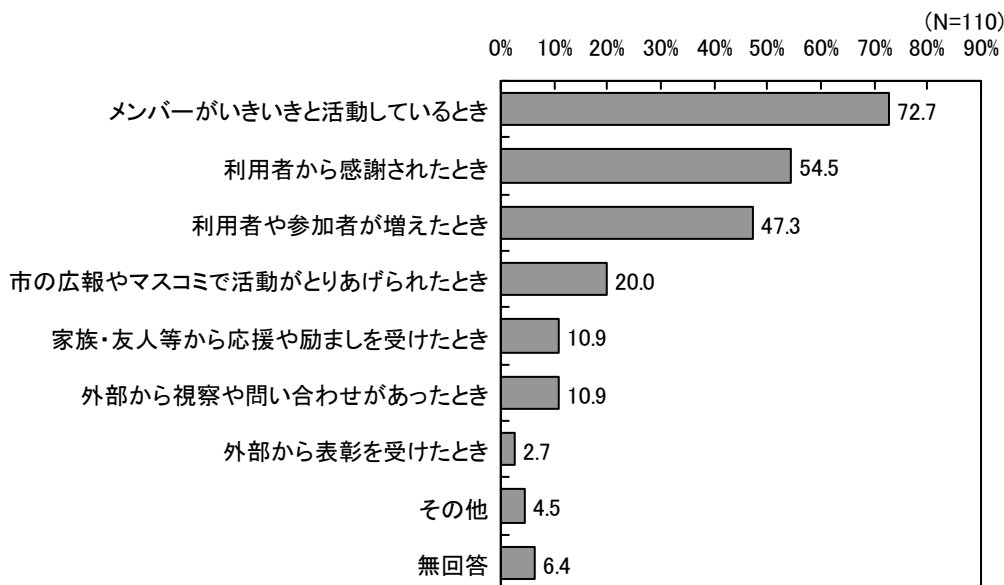
【「その他」の回答内容】

- ・ 利用会員の確保。

(2) 活動の“やりがい”を感じる時（問2）

・「メンバーがいきいきと活動しているとき」が72.7%と最も多く、次いで「利用者から感謝されたとき」が54.5%、「利用者や参加者が増えたとき」が47.3%となっている。

図表 12 代表として、活動の“やりがい”を感じる時(3つまで回答)



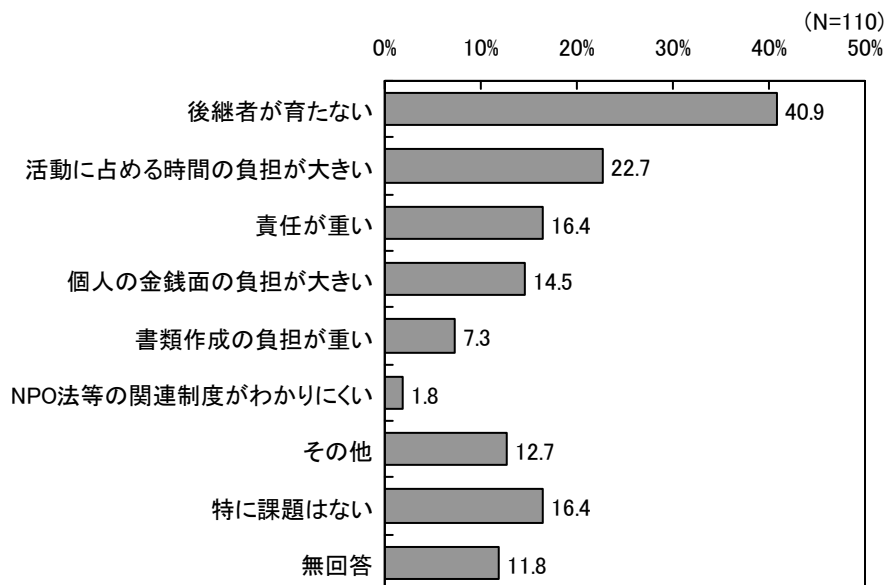
【「その他」の回答内容】

- ・ ネットワークが広がる時。
- ・ 里山所有者から喜ばれた時。
- ・ 園児たちの輝かしい未来への希望と大きな夢を掴み取る手助けになると思うと、やりがいを感じる。
- ・ 前例のない課題に取り組んでいる実感。

(3) 代表として抱えている課題（問3）

・「後継者が育たない」が40.9%と最も多く、次いで「活動に占める時間の負担が大きい」が22.7%、「責任が重い」が16.4%となっている。

図表 13 代表として抱えている課題(3つまで回答)



【「その他」の回答内容】

- ・ 活動場所の確保。
- ・ 活動場所の確保と機会。
- ・ 参加者集め。
- ・ メンバーが増えない。
- ・ 会員の増強化。
- ・ 年齢層が高いので将来が不安。
- ・ ボランティア募集。
- ・ 広報のチラシ配布方法。
- ・ 情報の共有。
- ・ 時間がない。
- ・ 市などの公的支援がほしい。
- ・ NPO法人にするのが煩わしい。

(4) 代表として抱えている課題を解決するために行っている取組（問3）

- ・代表の抱える大きな負担に対し、スタッフと役割を分担する、ボランティアなどから協力を得ることなどにより、負担の軽減を図っている。
- ・スタッフ・会員の確保に力を入れる団体や地域住民や若者の参加を促進している団体が多い。

【役割分担による負担の分散】

- ・誰にでもできるようなことは、役員以外の人にも1つずつでも頼むようにしている。
- ・文章の書けそうな方に文章作成をお願いする（ただし、必ずしも必要水準を満たした原稿ができるかわからないことが課題）。
- ・できるだけ自分たちの力で責任を持って仕事をしてもらう。
- ・スタッフに協力を頼んで仕事にやりがいを見出して頂きたい、いろいろなことにチャレンジしてもらっている。
- ・運営委員会をつくり、活動分野ごとに役割を分担している。会計担当は2012年度よりボランティアで決定してもらい、実務負担の軽減。公的書類はNPO会員の士業の人に行ってもらっている。
- ・副会長5人を置いて、会長の負担が重くならないようにする。
- ・折をみて経験者に声をかけている。
- ・スタッフで仕事の分担を図る。
- ・会への帰属意識を高めることや、エゴアイデンティティを持ってもらうよう、常に役員に伝えている。
- ・ネットワーク先への協力依頼。
- ・時間の負担については担当を分担してもらっている。
- ・書面上の組織や役割分担は出来上がっている。各担当者は毎回活動時、できるだけ参加協力願いたい。野外活動であるから、けが人が出ないように心掛ける。ストレッチ体操、登山注意事項説明、スポーツ保険入会勧誘。後継者、新入会者に楽しく元気で参加続けられるよう、コミュニケーションを充実させる。

【スタッフ・会員の確保】

- ・大阪ボランティア協会のインターネットでの紹介、ボランティア募集の広報活動。
- ・市政だよりなどによる会員募集。
- ・活動を通じてより多くの方に当団体を知って頂き、その中から協力者や後継者が出てきてくれればと考えている。

【地域住民や若者の参加促進】

- ・地域の方の協力、援助。
- ・若年層を引き込むために当地の中学生などに働きかけるため、町会にお願いしている。
- ・夜に活動にする。
- ・若手への働きかけ。
- ・若い年齢層の入会を勧めている。

【金銭的な負担の軽減】

- ・寄付を募っているが、難しい。
- ・現在自己負担で賄っているが、会費の徴収も必要かと考えている。
- ・助成金の申請。賛助会員については考えているが、まだ取り組んでいない。
- ・インストラクターの資格を取得して、収入を得られる事業にすることをめざしている。
- ・収益事業の確立に向けての活動。
- ・NPO法人化により役員などの負担を有償化し、利用者と役員を線引きする。

【NPO法等関連制度の理解】

- ・講座参加で理解していく。

【情報発信】

- ・メディアやウェブサイトを利用した広報。参加者へのイベント告知願いと運営の協力願。マイナスを出さない企画、アピール性・魅力ある企画づくり。
- ・広報掲載、ホームページ作成。
- ・発表やチラシで広報活動をしている。
- ・市政だより、ホームページなどにより広報。
- ・PR活動。
- ・ホームページを通じての活動の案内、プロジェクト事業への参加促進。
- ・「つどい」誌の市民団体紹介欄への活動予告掲載およびブログ、FMちゃお関連ニュースの報道。

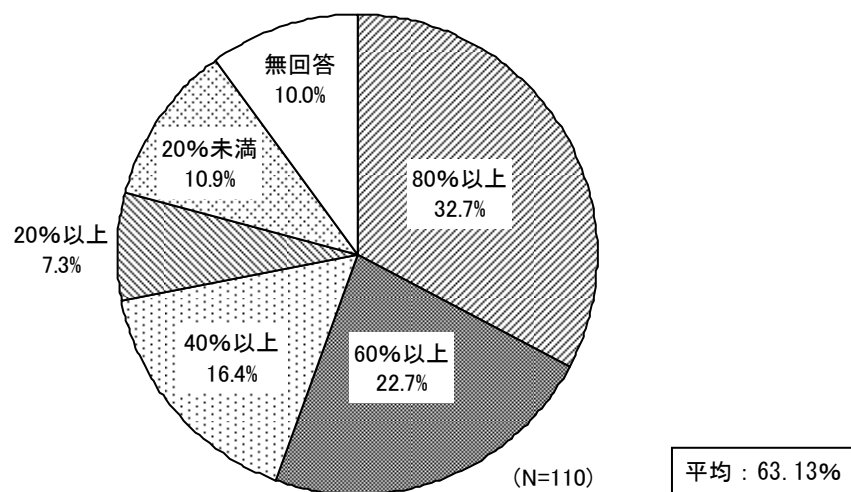
【その他の取り組み】

- ・議事録作成、会議、伝言、声かけ。
- ・史跡の見学会などを開催。
- ・市民活動団体との情報交換を目的とした交流イベント。
- ・衣装の手作り、練習場所の確保。
- ・PCでの対応とメール対応。
- ・本質的なテーマ（課題）に、日常を含め実直に包括的に取り組めるシステムの構築。
- ・活動・行動回数を減らす。

(5) 団体の設立目的の達成状況（問4）

- ・「80%以上」が32.7%と最も多く、次いで「60%以上」が22.7%となっている。
- ・平均値は63.13%である。

図表 14 団体の設立目的の達成状況



(6) 団体の設立目的の達成状況・その理由（問4）

- ・達成状況が高い団体では、その理由として、活動の目的が達成されていることだけでなく参加メンバーの参加状況がよいこと、満足度が高いことなども挙げられている。
- ・一方、達成状況が低いところでは、人材が不足し思うような活動ができていない、活動が認知されていないといった理由が挙げられている。

【達成率80%以上】

●参加者の満足度が高い

- ・現在会員ともども満足しており、これを今後も進めてゆく。
- ・ボランティアの要請にだいたい応じている。
- ・視覚障がいというハンディを持っていても、入会してみんなと会活動に参加してコミュニケーションを交わし、充実した生活を送っておられる。
- ・充実感がある。
- ・不特定多数の集まりを建前としているので（ある程度の常連は自然にできているが）、複数のメンバーが集まり会話が成立している。
- ・常に100名以上の子どもたちがいきいきと楽しんでいる。
- ・子どもを含め、関係者が一所懸命頑張ってくれている。
- ・日常活動はスムーズに行っています。スタッフの協力、育成会の協力がよい。
- ・助け合って活動できている。
- ・会員が着実に増え、内容も充実している。
- ・コンスタントな活動状況。
- ・メンバーの参加率。

●活動目的が達成されている

- ・本会は福祉ボランティアグループが集まり、市民ボランティア活動の啓発と地域福祉を推進する目的で設立されており、個々のグループがそれぞれ福祉ボランティアとして活動しており、本会はそれを支援している。
- ・元々60歳以上の人を対象で、趣味を通じて健康保持を目的として活動してきたので、その目的は十分に果たされたと思う。
- ・参加メンバーは十分目的を達成している。課題図書も読み込まれ、今の社会状況を楽しく話し合っている。
- ・八尾市で活動するグループが集まって演技発表を2年に1回行っており、隔年で体験による普及活動もずっと続いているから。
- ・年1回の定期コンサートや、病院や福祉施設などでのコンサートをすることにより活動目標を達成していると思う。
- ・活動する目的が一応達成されたから。
- ・高齢者の生きがいとしては最高。他の人に与える影響が大きい。考え方が前向き、健康的になる。
- ・適度なマジックの依頼があり、活動仲間の発表の場として活用できている。
- ・図書館や学校、幼稚園など依頼が増えて、人形劇を見て喜んでもらえている。

- ・市役所の協力によって交換学生や美術コンテストを数十年間継続して行っている。
- ・母子の交流の手助け（子育て支援）拠点となってきたと感じた。母子で楽しいと思って利用してくれている。
- ・年々対象を広げ事業化できている。前からある事業は安定している。
- ・大阪府や八尾市との事業連携、新企業への支援のスタート。

【達成率60%以上】

●活動目的は達成されているが課題もある

- ・保護者の理解を得ながら選手たちの育成を目標にしているが、団員も増えたためなかなか共通認識を持つことが難しく、今後の課題である。
- ・支援チームの全国大会出場がまだ達成されていない。
- ・スピード（予定）は多少遅れ気味ではあるが、確実に推進している。

●活動が継続・拡大できている

- ・年月を経ての内容の充実。
- ・会員が80～90人となり、運営委員が役割分担して進めている。環境、経済、科学技術は専門家のボランティアの協力で活動している。子どもの健全育成はアロマキャンドルや菜の花プロジェクトで取り組んでいる。まちづくりは不十分、これからの分野。
- ・まだまですることがあるように思う。
- ・初期の会員数に変動があっても維持している。
- ・設立が1983年で山を歩こうという団体が少なかったのと、八尾地区で珍しかったことや、役員や会員も若く活発に活動し入会者が多かった。今は各所で屋外活動登山グループがたくさんできたことと、趣味が多様化して参加者が減少した。会員数の移行も、最高200人ぐらいだったのが今は80～90人程度と減少した。会の存続を図り、低登山ハイキング程度の活動と、機関誌発行を継続するよう努めたい。
- ・会員が増えてきている。
- ・参加される方が定着してくれるようになった。
- ・活動できるメンバーは少ないが、年数回イベントなどやって、メンバーのいない地域へも活動の場が広がっている点。

●人材・場所の不足

- ・人数の不足感が大きい。
- ・個人の支援についてできる限り頑張っているが、スタッフの不足により思い通りのサービスが行えていないのではないかと考える。
- ・もう少し会員が増えることと、ボランティアコーチが増えることが足りない部分である。
- ・いつも同じメンバーで活動しているようで、若いメンバーを導入しないと今後の活動に不安がある。これまで以上に他方面への情報を発信しないといけないと感じている。
- ・会員がなかなか増えないが、現会員には満足感を得てもらっている。

●場所の確保

- ・場所の確保と機会をもっと確実に増やしたい。

●外部からの評価が高い

- ・保護者から感謝やお褒めの言葉を頂く。

【達成率40%以上】

●参加者の満足度が高い

- ・今メンバーが楽しく活動してくれているから。
- ・利用者同士の交流、悩み事を解決。

●活動が継続・拡大できている

- ・地区の清掃は80%以上達成、介護予防は40%以上達成。まだまだ将来的にみていかないと達成状況はわからないが、地区の介護予防への啓発はできていると思う。
- ・八尾市を広範囲に広げつつあり、隣の東大阪市、柏原市も会員仲間が増えている。
- ・毎回参加者が増えている。輪の広がり。目的の一つである「わ」づくり。それは輪であり和である。更に広がればよい。
- ・最多の時は月に2～3回(年12回)程度活動した。今年は2回(自粛した分を含む)。
- ・思ったよりイベントに積極的に参加してくれている。

●人材の不足

- ・月1回の学習会にそれぞれの事情で揃わないし、体調不良で脱退する者が出た。
- ・今より規模の大きい企画を実現するめ。活動回数活動人数を増やしたい。
- ・実務を中心に始めているが、今後の課題はいかにアクティブなメンバーを集めるかどうか。
- ・会員の数がまだ少ないので、参加者の増加を望んでいる。
- ・多くの加入者がありながら、参加者が少ない。
- ・里山保全活動はまだごくわずかの固定されたメンバーで動いている。会をもっと大きくして活動を広げるか、このままの状態でもまで通り進めていくか、迷うところである。もっと大きな会としていろんなことをやるには、これから理解者を多く得られるよう、自分たちで決する。
- ・困っている外国人やその家族への広報活動がまだまだできていない。
- ・それぞれに仕事があるため時間が取れない。外部からの呼びかけに参加できない時がある。メンバーが事情で辞めたりした時など。
- ・少人数ではあるが良い人間関係が築け、20年続いている。若い人の参加がなく、人員減少傾向にある。

●認知度が低い

- ・今の活動が今一つ広く知られていないことが課題としてある。

【達成率20%以上】

●活動の目的が達成できている

- ・設立当初の目標は会員同士の助け合いで、介護保険制度が発足するまでは80%以上の達成状況にあったが、現在は助け合い活動より介護保険を使える安心感で会員が減少し、現状の活動は20%になった。

●活動の目的が達成できていない

- ・アニマルセラピー活動の普及ができない。動物の力を借り、高齢者や障がいのある方を癒やしたいと思う気持ちがあるが、メンバーの協力不足もあり一般に受け入れてもらえない。アニマルセラピー活動をもっと知ってもらいたいと思います。毎月1回、犬の躰教室を行っている。自分自身も指導するが、専門の講師を招いている。経費が大。
- ・目的達成のためのアイテム（広報誌、地域通貨など）やネットワークは広がっているものの、「いきいきとしたまちづくり」からは仕組みづくりにおいても具体的な活動においても大きな隔たりがある。
- ・主に語学の勉強をしているが、あまり成果を出せていないように思う。
- ・紙芝居単独での実演より、他のものとの併用が多い。

●人材の不足

- ・季刊誌の80ページほどを維持していたが、今は40ページがやっと。特に小説の書ける人に入会してもらえたらと思っている。

【達成率20%未満】

●活動の目的が達成できていない

- ・最終目標は大きすぎるので、現時点で目の前の希望を100とするとこれぐらい。利用者がなかなか増えないので。
- ・まだまだ放置自転車が多く、私たちの活動だけで解決できる問題ではないため。

●事業が拡大できていない

- ・まだまだ金銭的に自立できていない。将来的にはスタッフも会員も安定した環境（働く環境、利用者の数など）をめざしている。

●人材の不足

- ・高齢化。
- ・活動する人数が少ないので、八尾市全部の老人ホームへ行きたいが、仕事もあり行けない。
- ・仕事で忙しく、時間がないから。
- ・若い会員が増えないことや、役員の高齢化による実行力が伴わない。ITに弱いなどが考えられる。
- ・結成当時は目標100%だったが、近年は入れ替えなどで会員数は減少している。若者との考えの差が少しあり、愛好者が少なく会員の若年が少ない。中高年化しつつある会員のため減少していくのが実態。後継者づくりが課題である。

●場所の確保

- ・活動の場の確保が難しい。

●認知度が低い

- ・当会活動へ一般の方の参加が少ない。活動内容周知のためのPRができてない。

【達成率無回答】

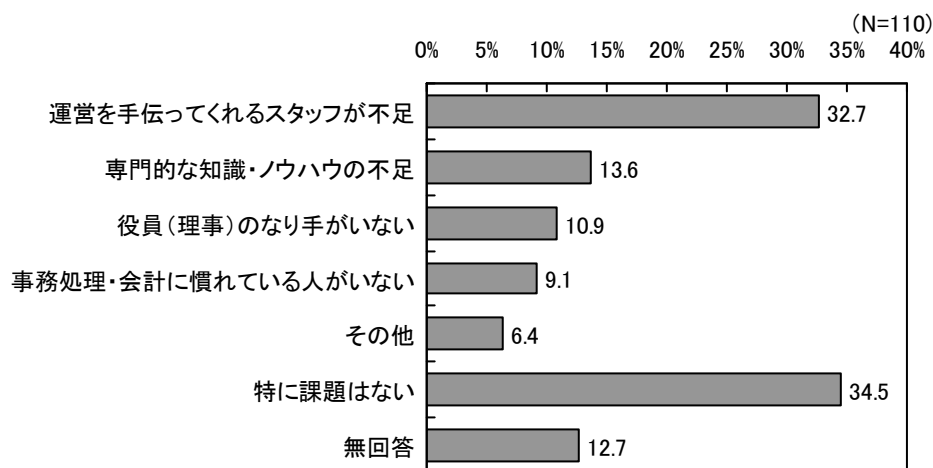
- ・会の掲げる目標について提案をする場や機会がある。目標の実現に向けて参考となるデータの作成ができた。
- ・当協議会は「茶の間のすみずみにいきわたる人権啓発」をスローガンに掲げ活動している。各地区福祉委員会での人権研修を実施し、地域に根ざした人権啓発を行っているが、数値で評価したことはない。

3. 団体の活動状況や活動に関する課題について

(1) 団体の人材に関する課題（問5）

・「特に課題はない」が34.5%と最も多く、次いで「運営を手伝ってくれるスタッフが不足」が32.7%、「専門的な知識・ノウハウの不足」が13.6%となっている。

図表 15 団体の人材に関する課題（2つまで回答）



【「その他」の回答内容】

- ・メンバーの高齢化。
- ・若い人材に入ってほしい。
- ・年々会員が減少している。
- ・ボランティアの不足。
- ・広く活動できる人材。

(2) 団体の人材に関する課題を解決するために行っている取り組み（問5）

- ・人材の確保については、知り合いや関係者に声をかけるだけでなく、インターネットを使った募集、マスコミへの資料提供などのPR活動を行っている団体もある。
- ・人材の育成については、自身に役員や責任者を担当してもらうことで成長を促すという団体が多い。また、外部のセミナーなどにも参加している。
- ・不足する人材を確保するのではなく、外部の人材を活用して対応している団体もある。

【人材の確保】

- ・多方面に声をかけている。
- ・知り合いに声をかけている。
- ・ボランティア募集の広報活動。
- ・ボランティアを募集しているが集まらない。
- ・まず保護者などから担い手を探している。
- ・今利用している人たちへの呼びかけと、マスコミへの資料の提供。
- ・現役員に新たに役員になってくれそうな人材を探してもらっている。
- ・PR広報活動に基づく参加者募集。
- ・常にネットを張って募集している。
- ・若い人の入会促進を図る。登山経験者（リーダー担当）の新規入会者を知人を通して募る。

【人材の育成】

- ・順番に必ず1回は役員を経験する。任期は2年。できるだけ4年は継続する。
- ・パソコンやメールを駆使できるように努力している。
- ・順番に責任者になってもらって、その仕事に自覚を持ってもらう。
- ・数多くの経験を積むことに尽きると思う。
- ・何か一つ役職を持ってもらう。自分の計画（計画書）を出してもらう。
- ・他団体の活動への参加、セミナーなどの参加。
- ・月に1回、利用者スタッフ共に勉強会を開いている。
- ・研修があれば積極的に参加するようにしている。ボランティアの確保に動いている。
- ・コツコツと指導している。
- ・毎年講習会を開催しているが、自分の学習する根気が続くのが難しい点が大きいので、個々の自覚を待つのみ（私たちが強制できない）。

【外部人材の活用】

- ・外部にサポートを依頼。
- ・大きなイベントの時は地域の方へも手伝いをお願いしている。
- ・外部との連携も日常化。
- ・卒団生が戻ってきやすい雰囲気をつくる。OBの集まる機会をつくる。
- ・今は内部（会員）に頼っているので、外部の専門ボランティアを招聘したいが、当会に力がない。

【その他】

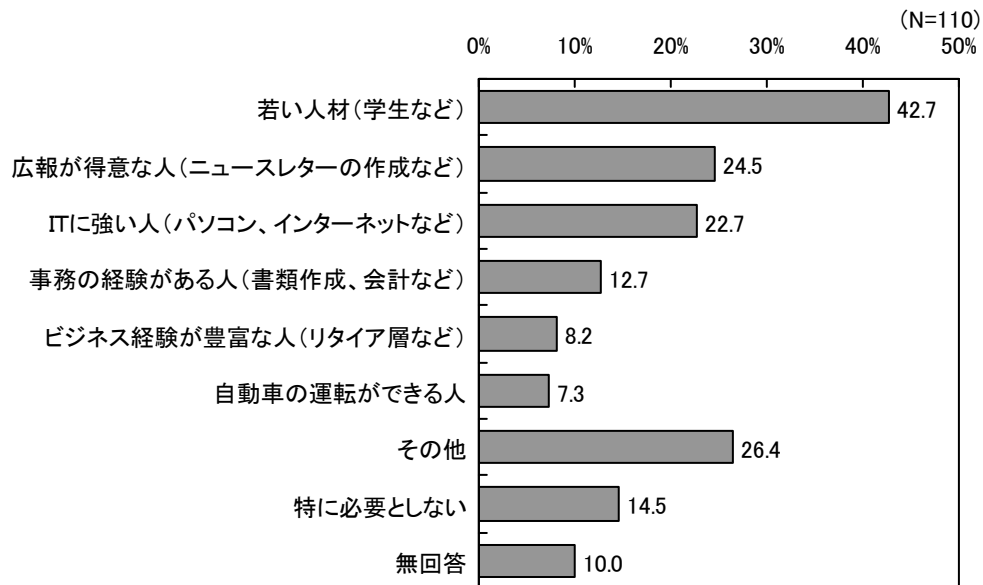
- ・ 練習会の開催。
- ・ 理事が頑張っている。
- ・ 地道な活動。
- ・ 人と人とがふれあうイベント、場所づくり。
- ・ 分担。

(3) 団体に参加してほしい人材(問6)

・「若い人材」が42.7%と最も多く、次いで「広報が得意な人」が24.5%、「ITに強い人」が22.7%となっている。

・「その他」として、専門的な知識・技能を持つ人材を求める声も多い。

図表 16 団体に参加してほしい人材(複数回答)



【「その他」の回答内容】

●専門知識・技能を持つ人材

- ・生演奏ができる人で、良識ある方。
- ・楽器の演奏、歌唱指導のできる人。
- ・音大卒のコーラスなどの指導できる人。
- ・ラグビー競技の知識。
- ・元介護家族、OB。
- ・体操経験のあるコーチ。
- ・登山経験者。
- ・寄付を取ってくる人がほしい。
- ・専門知識を持った若い人。
- ・人権意識の高い人。

●意欲・関心の高い人材

- ・絵本が好きで、読み聞かせができる人。
- ・好奇心、向上心のある人。
- ・ボランティア精神の旺盛な人。
- ・行動力のある人。
- ・息長く活動できる人。
- ・身軽に気持ちよく動いてくれる方。
- ・継続して活動に参加できる人。

- ・手話に興味のある人。
- ・犬を愛し、人・弱者を愛する人材。

●不問

- ・どなたでもOK。
- ・ボランティアして下さるなら、年齢や経験は問わない。
- ・誰でもよい。
- ・人材はいらない。参加するだけでよい。

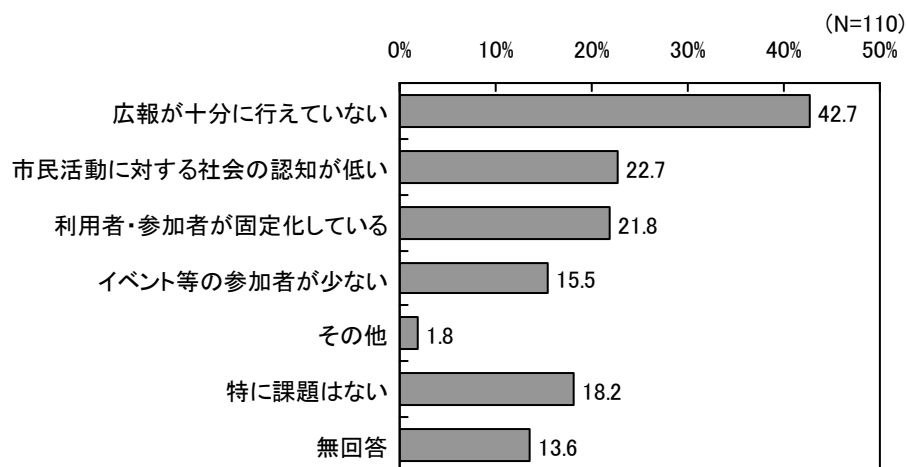
●その他

- ・時間に余裕のある人。
- ・30～50代の人材。
- ・40～50代の人。
- ・会員として入団してほしい。

(4) 広報や参加者に関する課題 (問7)

・「広報が十分に行えていない」が42.7%と最も多く、次いで「市民活動に対する社会の認知が低い」が22.7%、「利用者・参加者が固定化している」が21.8%となっている。

図表 17 広報や参加者に関する課題(2つまで回答)



【「その他」の回答内容】

- ・参加者の交流をどう広げるか。
- ・広報が伝わらない理由として、私たちの活動を十分に理解してもらえていない点が大
きい。

(5) 広報や参加者に関する課題を解決するために行っている取組（問7）

- ・知人・友人などに対して、直接呼びかけるといった団体が多い。
- ・広報媒体としては、市政だよりへの掲載やチラシの配布、コミュニティ放送FMちゃおの放送などが活用されている。
- ・さまざまな人に興味を持ってもらい、参加者が増えるよう事業内容を工夫している。

【知人・友人への呼びかけ】

- ・口コミなどの方が効果的である。
- ・声かけやチラシを配っている。
- ・会員に家族や友人とイベントに参加してもらえるように呼びかけている。
- ・会員が個々に知人に声をかけている（水呑地蔵尊、生駒、信貴山登山時）。
- ・会員による勧誘が功をなしている。
- ・知り合いにだけでも宣伝する。
- ・他の聴覚障がい者にイベントなどを紹介し、参加を呼びかけている。
- ・メンバーからの声かけ。

【市政だよりへの掲載】

- ・市政だよりなどの利用。
- ・市政だよりに記載してもらうこと、各団体に呼びかけることのみ。
- ・市政だよりで広報してほしいが、書類審査が厳しい。もっと自由に情報の場がほしい。ホームページで会の情報は流すようにしている。
- ・「つどい」会報などでの広報。

【チラシやコミュニティ放送など多様なメディアの活用】

- ・チラシの配布手段の拡大、「つどい」への市民活動紹介やブログFMちゃおなどの利用。
- ・FMちゃおは毎月PRしている。
- ・パンフレット作成中。
- ・チラシ配布、紹介。
- ・公共施設などへのチラシ作成をしている（配布はまだ）。
- ・チラシを利用しているが、なかなか効果が出ない。
- ・あらゆる機会を利用してチラシを配るなど広報に努めている。それしかない。
- ・会で案内を作り配布している。
- ・図書館などに会報を置いてもらったり、会員からの紹介で会員を増やす。
- ・広報誌の発行を最近始めた。できるだけ多くの人に見てもらう。
- ・PR活動を強化すること。現在参加不参加を別にして、どのようなイベントをしているかをハガキによって案内している。
- ・広報に力を入れている。
- ・あらゆる手段を持って視覚障がい者団体の存在をPRしている。
- ・マスコミの活用。

- ・ ネットワークセンター・行政・マスコミへの呼びかけ、資料の提供。
- ・ IT化とネットワークによるバックアップ体制づくり。

【活動内容の工夫】

- ・ いろいろな層（若年層、リタイア層、ファミリー層）向けのイベントを行って、認知を広めていくように活動している。
- ・ 小さなイベントなどに参加している。依頼があった施設には必ず訪問している。
- ・ ボランティア活動展やボランティアお試し講座など、ボランティア活動やボランティアグループの啓発活動を実施している。
- ・ 長年の活動となってくる中でのマンネリ化の打破と新規プロジェクトへの取組。
- ・ 多くの人に興味を持ってもらえる研修内容の検討。

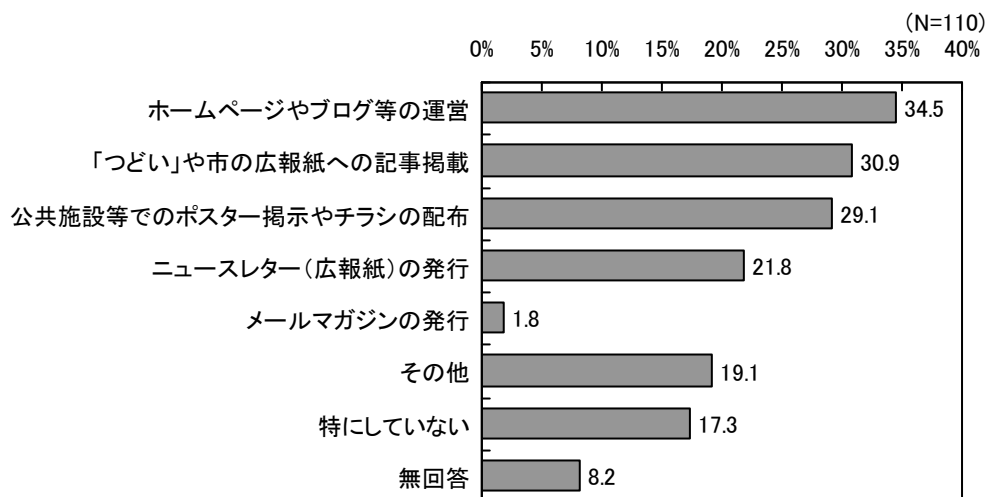
【その他】

- ・ 町会への働きかけ。
- ・ 市の助成金を利用して、広報や講演会などを開催予定。
- ・ パソコンのメールでやり取りできる人材の発掘を心掛けている。現状は私一人が負担しているので、手が回らない。
- ・ 新規参加者の開拓。
- ・ 当法人では外国人の生活相談をしており、その生活相談をされた家族がボランティアをしてくれている。

(6) 情報発信手段（問8）

・「ホームページやブログ等の運営」が34.5%と最も多く、次いで「「つどい」や市の広報紙への記事掲載」が30.9%、「公共施設等でのポスター掲示やチラシの配布」が29.1%となっている。

図表 18 情報発信の手段（複数回答）



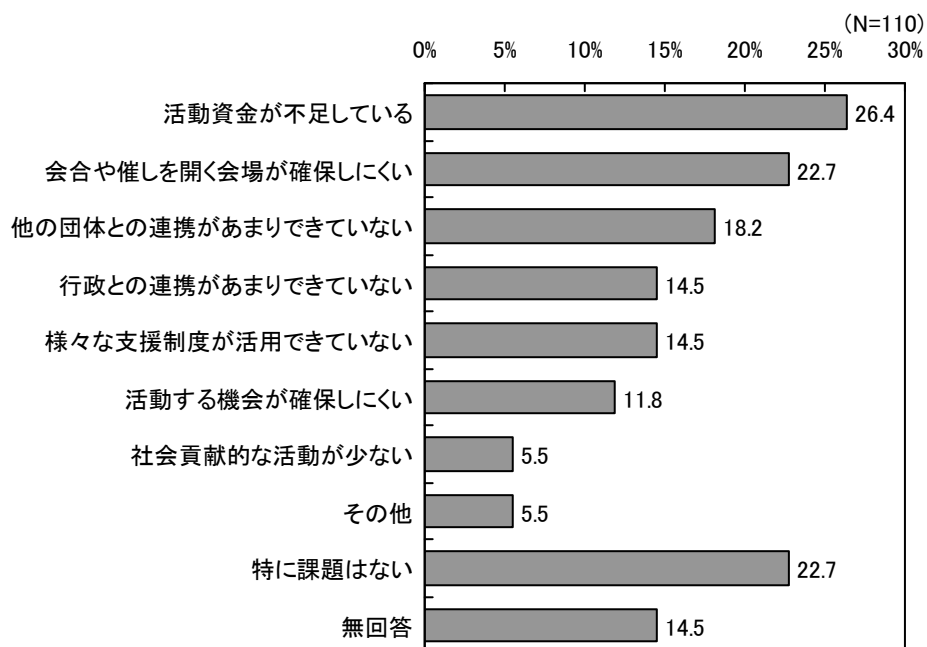
【「その他」の回答内容】

- ・ FMチャオ。
- ・ FMチャオ、メーリング。
- ・ ツイッター、フェイスブックなどのSNS。
- ・ 上部団体の広報紙およびホームページに掲載。
- ・ 活動報告書（毎春）。
- ・ 参加者に資料提供。
- ・ 行事案内。
- ・ 参加した人に年3回案内状。
- ・ 参加者に郵便でお知らせ。
- ・ 案内ハガキ、口コミ。
- ・ 会員の口コミ。
- ・ 季刊誌の発行。
- ・ 旬報の発行。
- ・ 新聞折込。
- ・ 各地のサークルを通して。
- ・ 環境フェスタ、子どもフェスタなどに出演。
- ・ 敢えて公的認知力を高めるべく、助成金の申請。

(7) 団体の運営に関する課題（問9）

- ・「活動資金が不足している」が26.4%と最も多く、次いで「会合や催しを開く会場が確保しにくい」が22.7%となっている。
- ・「特に課題はない」も22.7%となっている。

図表 19 団体の運営に関する課題（3つまで回答）



【「その他」の回答内容】

- ・メンバーの広がりがない。
- ・集合してもらえない。何のためにみんなでイベントをしているのかをそれぞれにわかってほしい。
- ・運営に関わりたい正会員が増えない。行政の担当課に限定してしまう（他にも関係あるのに）。
- ・もっと参加費を安くしたい。
- ・行政が拒否している。
- ・個人的事情。

(8) 団体の運営に関する課題を解決するために行っている取組（問9）

- ・活動資金の不足を補うため、各種助成金への申請や、バザー活動などによる資金集めといった取り組みが見られる。
- ・活動の場を確保するために、「つどい」をはじめとした施設を借りている。また、代表者の自宅を使っている例もある。
- ・他団体からの協力依頼への対応をしている団体や、他団体と連携が取れないか話し合っている団体の事例を見ることができる。

【活動資金の確保】

- ・市政だよりなど公文書の点字化などを行って資金を作っている。
- ・バザー活動などで資金を集めている。
- ・カンパ金。
- ・利用会員の獲得、助成金応募、寄付賛助金を募る。
- ・新規事業には助成金などへ申請。社会の問題を個人レベルで考える機会をつくる。
- ・各種助成金。
- ・助成金を利用し大変助かった。ボランティアで、資金も自分たちの会費ではあまりにもきつい。
- ・助成金の申請、つながりをつくる。

【活動の場の確保】

- ・早めの場所の確保。
- ・「つどい」の会議室を借りている。
- ・広報の手段、活動会場確保が全然できてない。現在はプリズムホールで借りている。福祉会館も空きがあれば利用。
- ・なかなか会場がないので、代表者の自宅で行っている。

【行政・他団体との連携】

- ・八尾市体育振興会などへの取組。
- ・他団体との提携。
- ・他団体との連携が取れないか、役員会で話し合っている。
- ・他団体の支援とアドバイスをすることでブレーンを広めている。
- ・他の地域への啓発、他の地域からの依頼に協力。
- ・行政に対してはアプローチするが、理解度が薄い。

【その他】

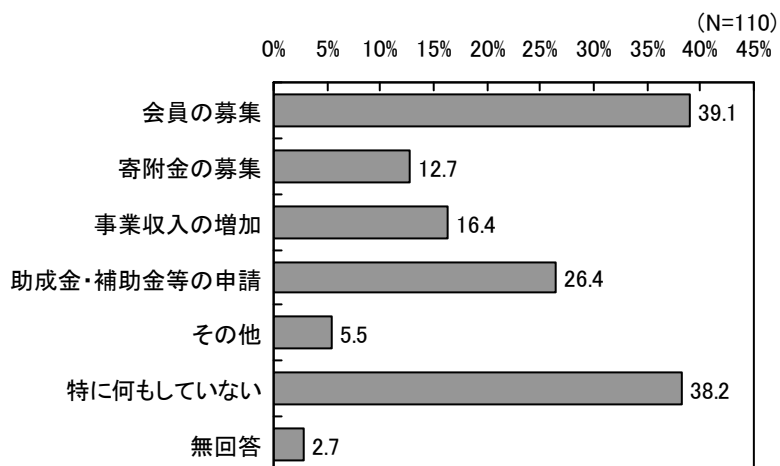
- ・個々への声かけ。
- ・会場（プリズムホール、ネットワークセンター、社会福祉協議会、町会）での呼びかけ、参加。
- ・駅前でのチラシ配布だけではなく、学校や一般の方への講習会などでの啓発活動も行っている。

- ・春の市民活動祭、秋のボランティア祭、全て参加している。「つどい」の小さなイベント全てに参加している。
- ・参加型演奏会。
- ・ミーティングの定例化、年会例会の計画、毎年会員へのニュース発刊（会員の近況など）。例会の定期化は必ず行っている。
- ・できるだけ情報を集める努力をしている。
- ・個人の健康管理に努めている。
- ・活動を行っていることの宣伝ができていない。
- ・今後の運営の仕方を考えている。

(9) 資金確保のためにしている活動（問10）

- ・「会員の募集」が39.1%と最も多く、「助成金・補助金等の申請」が26.4%となっている。
- ・一方、「特に何もしていない」も38.2%となっている。

図表 20 必要な資金を確保するためにしている活動（複数回答）



【「その他」の回答内容】

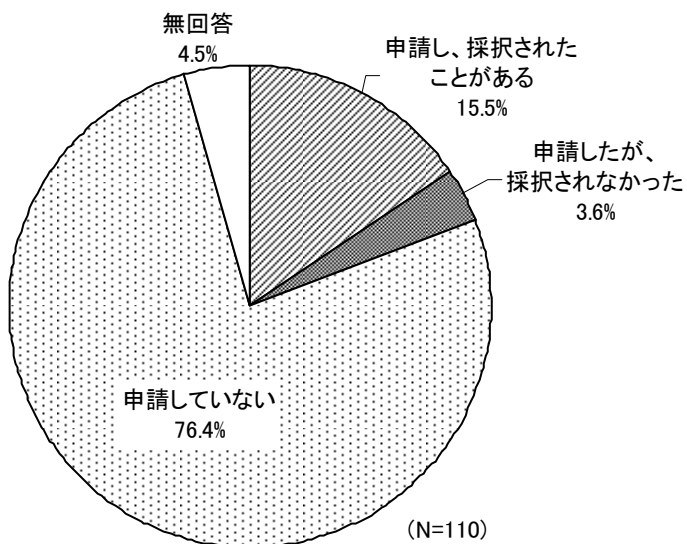
- ・ 参加者や利用者からの参加費。
- ・ 物品の提供（いらない切手を持ってきてもらう）。
- ・ 山主の依頼による里山整備に対する謝礼。
- ・ 府の講習受講（会員の募集）。
- ・ 経費削減。
- ・ 自己資金の投入。

(10) 八尾市市民活動支援基金事業の利用状況

a) 八尾市市民活動支援基金事業の利用経験 (問11)

・76.4%の団体が「申請していない」と回答している。

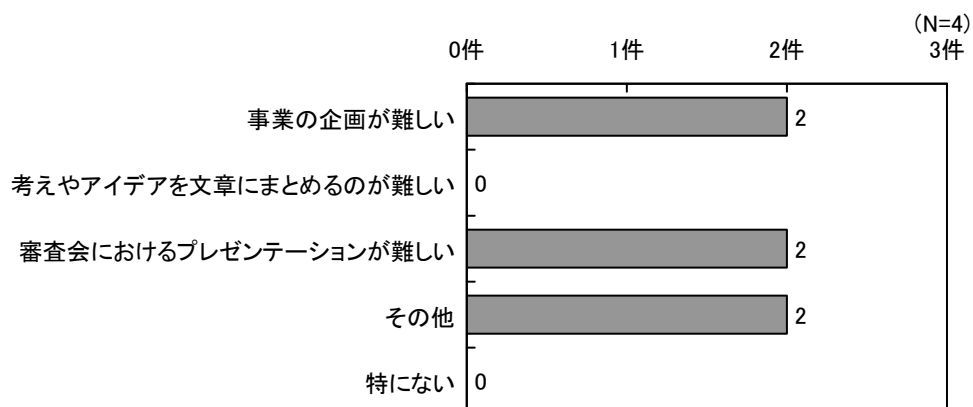
図表 21 八尾市市民活動支援基金事業の利用経験



b) 八尾市市民活動支援基金事業の利用申請にあたって特に難しかったこと (問11 - 1)

・「事業の企画が難しい」「審査会におけるプレゼンテーションが難しい」と回答した団体がそれぞれ2団体あった。

図表 22 申請にあたって特に難しかったこと
(申請したが採択されなかった団体ベース、2つまで回答)



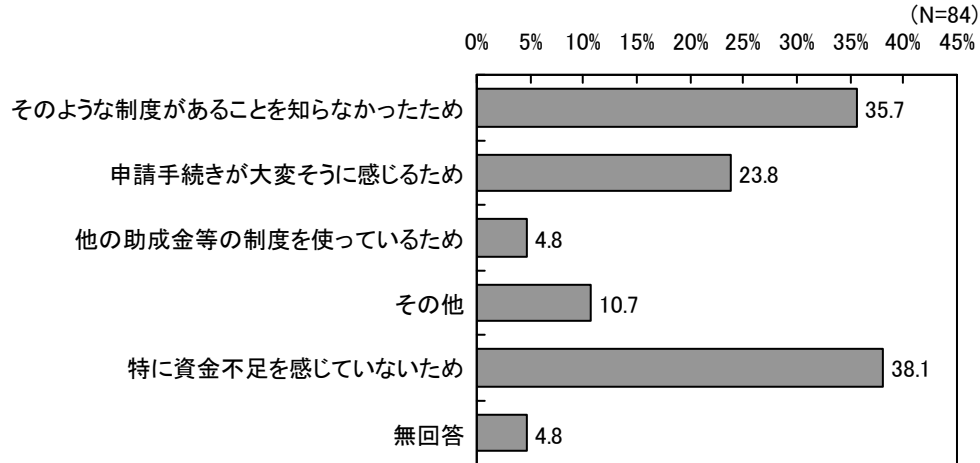
【「その他」の回答内容】

- ・事業自体がNPO活動の事業の一環であるため採択されなかった（NPO活動は八尾市のためになっていない）。
- ・活動内容や思いを伝えにくい。

c) 八尾市市民活動支援基金事業の利用を申請していない理由(問11-2)

・「特に資金不足を感じていないため」が38.1%と最も多いが、「そのような制度があることを知らなかったため」との回答も35.7%あった。

図表 23 申請していない理由(申請していない団体ベース、2つまで回答)



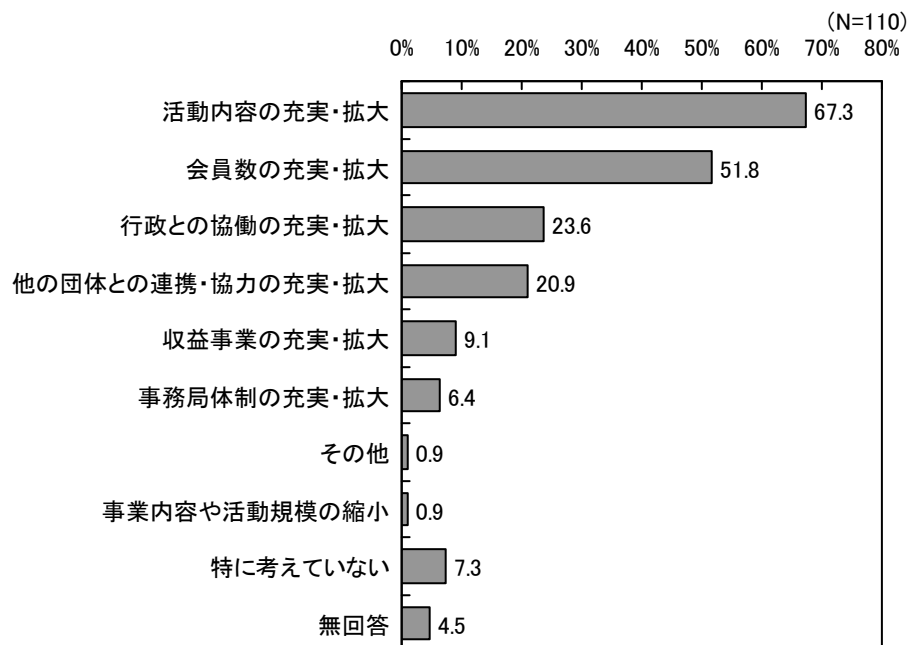
【「その他」の回答内容】

- ・期間が中途半端で利用活用しにくい。
- ・市内メンバーが過半数もいるかわからない。
- ・本会の性質上していないが、個々のグループでは活用しているところもある。
- ・行政からの委託事業のみを実施しているため。
- ・少人数のサークルなので。
- ・自主的な活動のため。
- ・市民活動は自己資金ですべき。
- ・他団体の申請内容を把握し、研究中。
- ・平成24年4月発足につき、25年度は申請したい。

(11) 今後、力を入れたい取組（問12）

・「活動内容の充実拡大」が67.3%と最も多く、次いで「会員数の充実拡大」の51.8%となっている。

図表 24 今後、力を入れたい取組（3つまで回答）



【「その他」の回答内容】

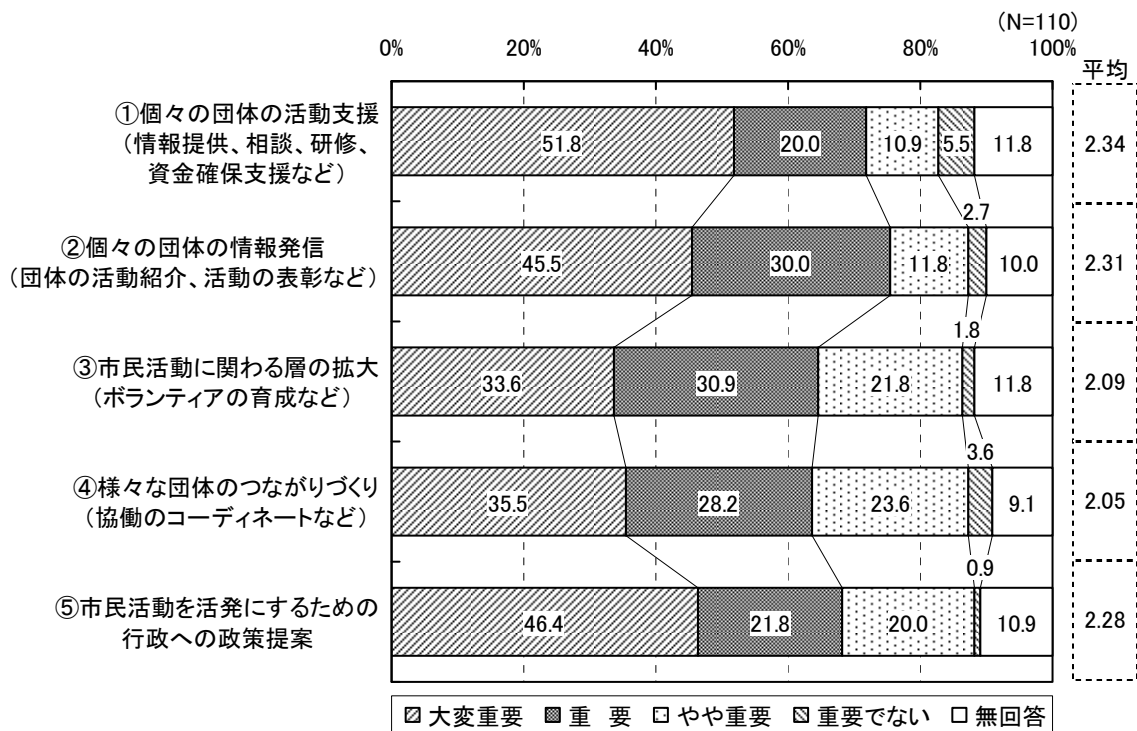
- ・ 社会貢献度の増加。

4. 「つどい」への期待・要望

(1) 「つどい」が果たす役割の重要度（問13）

・「①個々の団体の活動支援」の重要度が最も高く、次いで「②個々の団体の情報発信」「⑤市民活動を活発にするための行政への政策提案」の順となっている。

図表 25 「つどい」が果たす役割の重要度



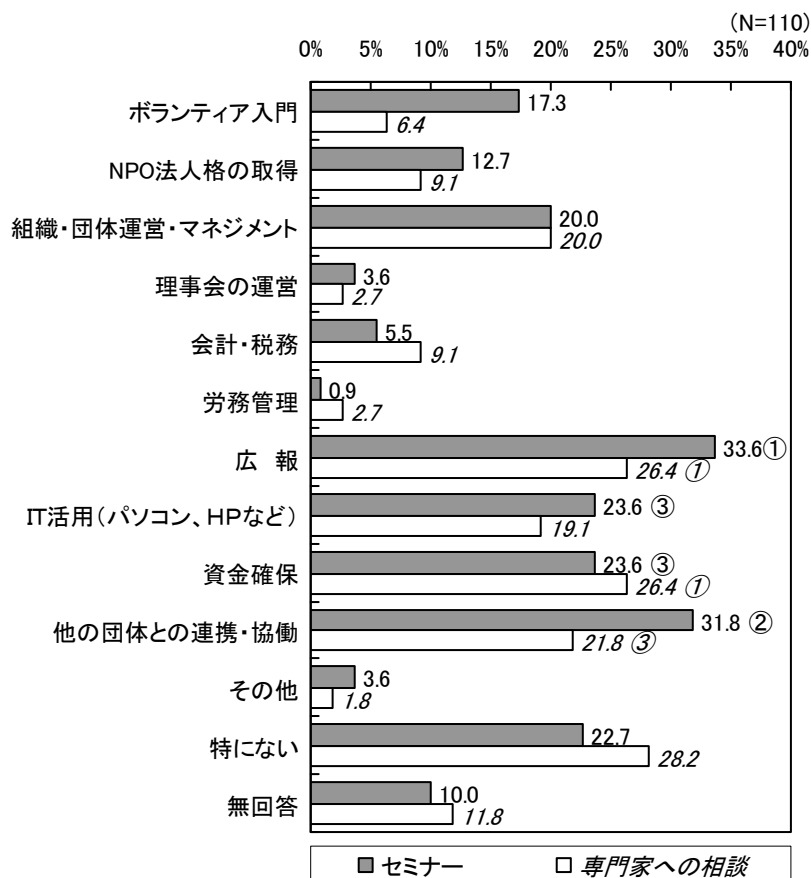
※平均は「大変重要」=+3、「重要」=+2、「やや重要」=+1、「重要でない」=0とした加重平均値

(2) セミナーや相談について

a) 希望するセミナー専門家への相談の内容（問14、問15）

- ・希望するセミナーのテーマをみると、「広報」が33.6%と最も多く、次いで「他の団体との連携・協働」が31.8%、「IT活用」「資金確保」が23.6%となっている。
- ・専門家へ相談したい内容では、「広報」「資金確保」が26.4%と最も多く、次いで「他の団体との連携協働」が21.8%となっている。

図表 26 希望するセミナー専門家への相談の内容（複数回答）



※丸数字は上位3位の項目

【問14「その他」の回答内容】

- ・笑い与健康。
- ・起業、コミュニティビジネス、リスクマネジメント。
- ・収益事業の戦略的取組について。
- ・女性の生き方、これからの人生。

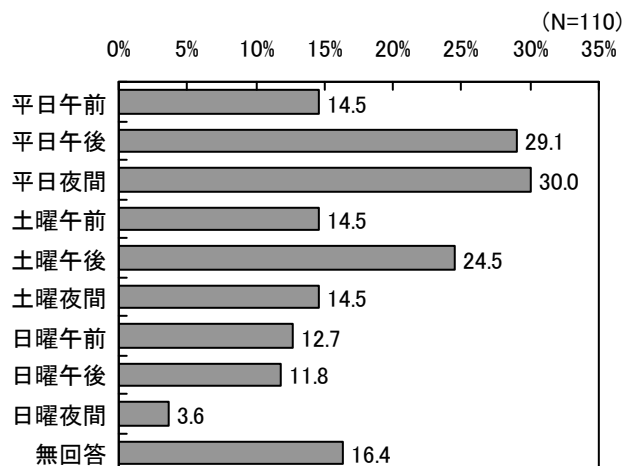
【問15「その他」の回答内容】

- ・起業、コミュニティビジネス、リスクマネジメント。

b) セミナー相談に参加しやすい時間帯（問16）

・「平日夜間」が30.0%と最も多く、次いで「平日午後」が29.1%、「土曜午後」が24.5%となっている。

図表 27 セミナーや相談に参加しやすい時間帯（3つまで回答）

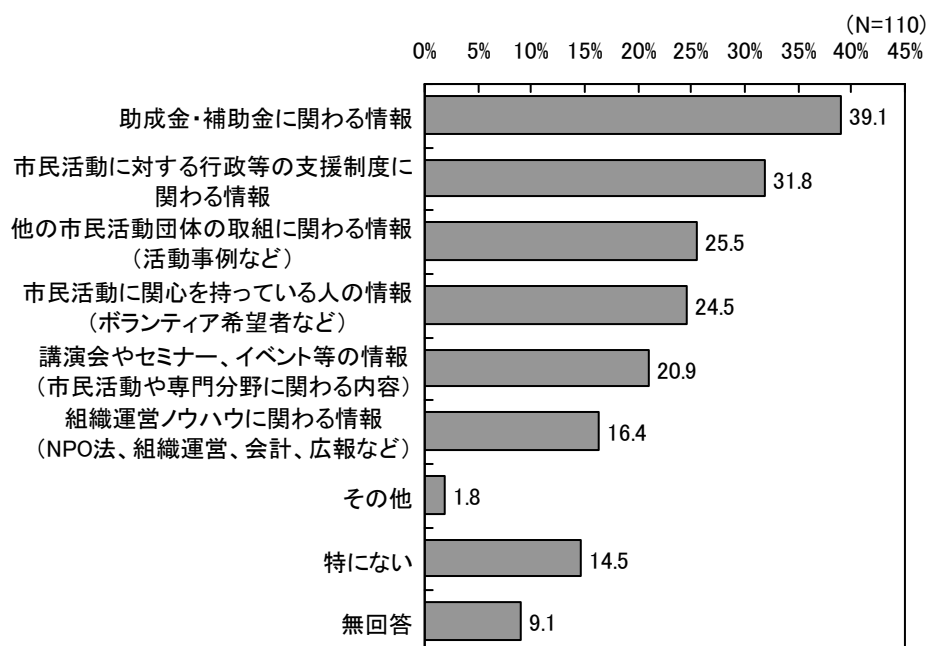


(3) 活動にあたって必要となる情報や情報発信について

a) 団体の運営にあたって必要となる情報（問17）

・「助成金・補助金に関わる情報」が39.1%と最も多く、次いで「市民活動に対する行政等の支援制度に関わる情報」が31.8%となっている。

図表 28 団体の運営にあたって必要としている情報（3つまで回答）



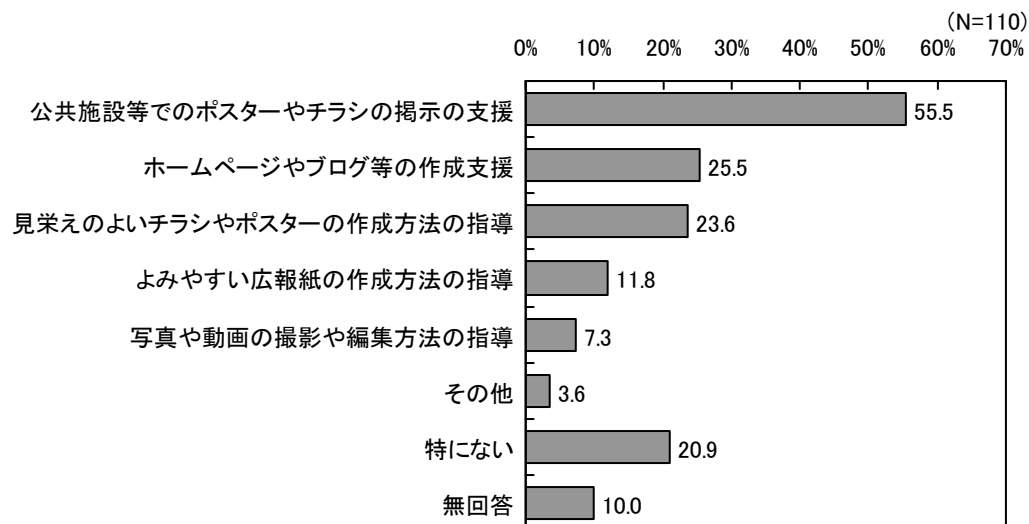
【「その他」の回答内容】

- ・練習会場・会合場所など、空室の開放を望む。
- ・活動場所の確保に関する情報。

b) 情報発信にあたって希望する支援（問18）

・55.5%の団体が「公共施設等でのポスターやチラシの掲示の支援」を挙げている。

図表 29 情報発信にあたって希望する支援(3つまで回答)



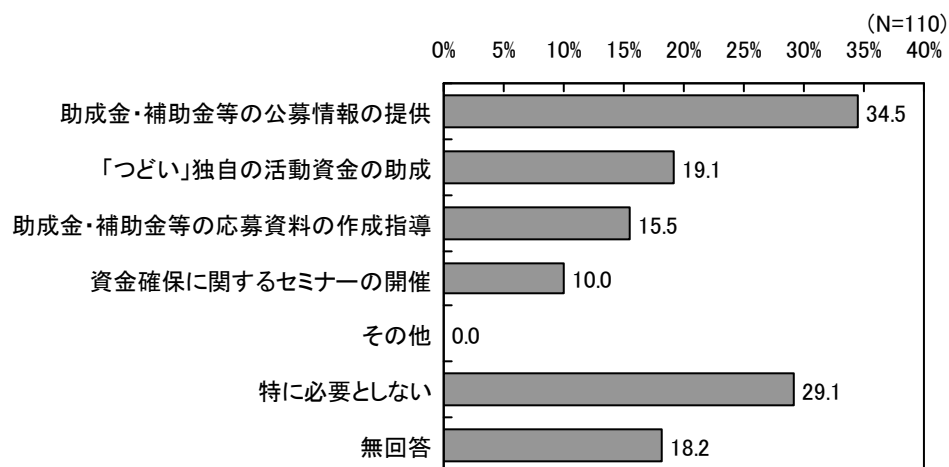
【「その他」の回答内容】

- ・ 市政だよりや社協だよりに載せてほしい。
- ・ 例えば子育て支援のチラシはこういう場所に置けるなどと教えてもらえたり、つないでもらえたらありがたい。
- ・ マスコミへのアップ方法強化。

(4) 活動にあたって必要となる資金の確保について（問19）

・「助成金補助金等の公募情報の提供」が34.5%と最も多く、次いで「つどい」独自の活動資金の助成」が19.1%となっている。

図表 30 資金確保にあたって希望する支援(2つまで回答)

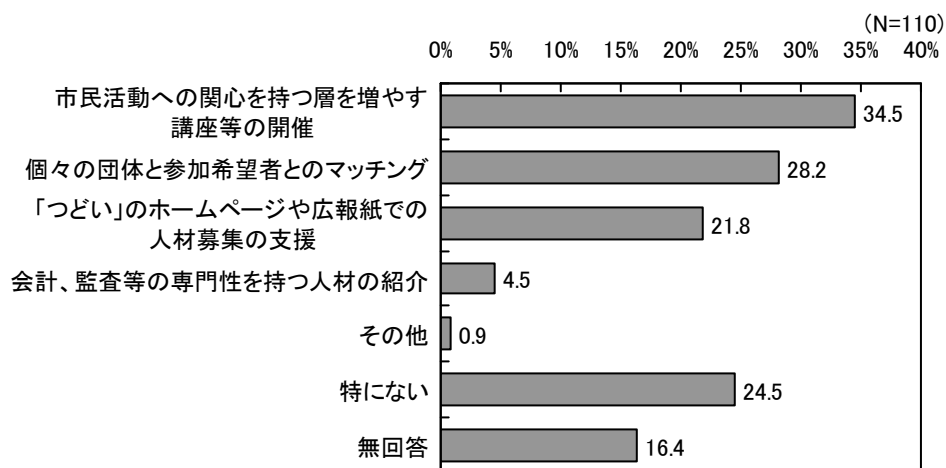


(5) 市民活動に関わる人材の育成について

a) 人材育成確保にあたって希望する支援（問20）

・「市民活動への関心を持つ層を増やす講座等の開催」が34.5%と最も多く、次いで「個々の団体と参加希望者とのマッチング」が28.2%となっている。

図表 31 市民活動の人材育成確保にあたって希望する支援（2つまで回答）



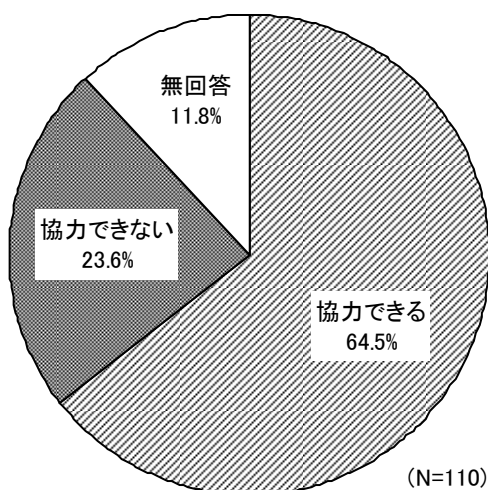
【「その他」の回答内容】

- ・学生ボランティアとのマッチング。

b) 「つどい」が実施する「体験参加」への協力の可否（問21）

・体験参加希望者の受け入れに「協力できる」と回答している団体は64.5%となっている。

図表 32 体験参加希望者の受け入れへの協力の可否



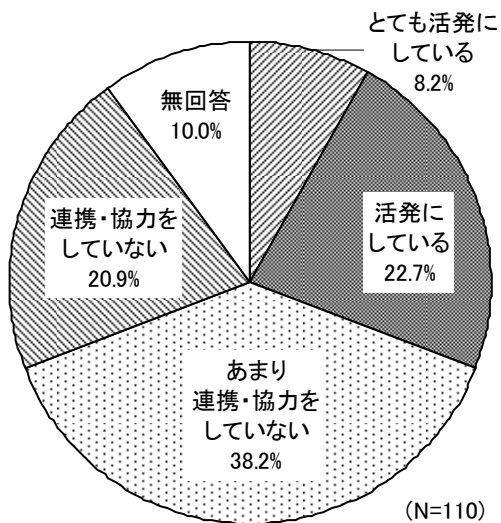
5. 多様な団体との連携協力について

(1) 多様な団体との連携協力状況

a) 多様な団体との連携協力の有無（問22）

・多様な団体と連携協力している（「とても活発にしている」「活発にしている」）団体は30.9%となっている。一方、連携協力をしていない（「あまり連携協力をしていない」「連携協力をしていない」）団体は59.1%となっている。

図表 33 多様な団体との連携協力の有無

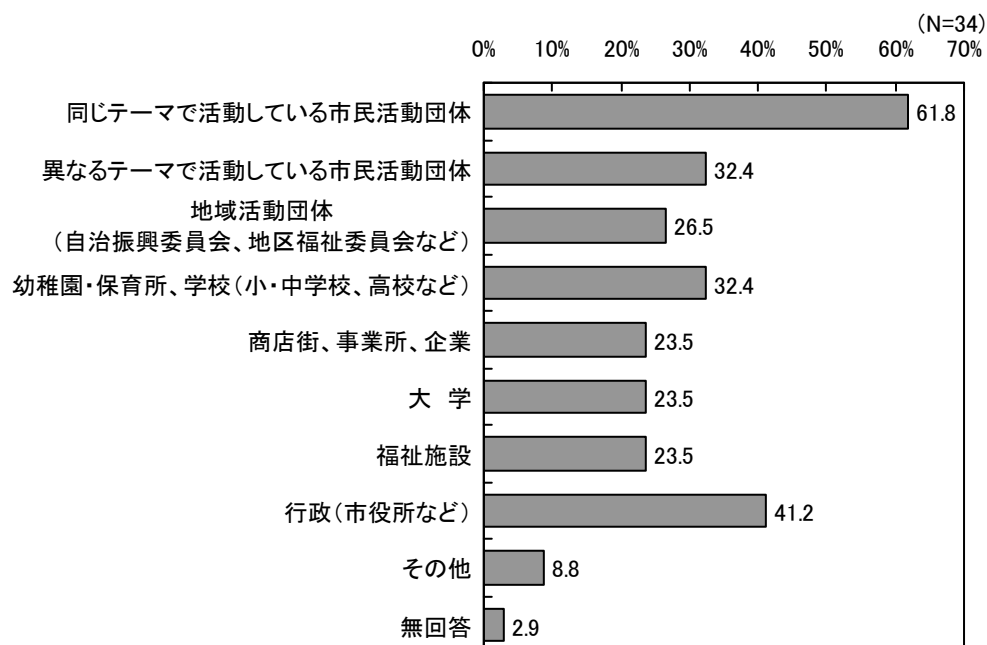


b) 連携協力をしている団体（問22 - 1）

・「同じテーマで活動している市民活動団体」が61.8%と最も多く、次いで「行政」の41.2%となっている。

図表 34 連携協力をしている団体

（「とても活発にしている」「活発にしている」と回答した団体ベース、複数回答）



【「その他」の回答内容】

- ・ 病院。
- ・ 法人格のある団体など。
- ・ 上部組織。

c) 他団体との連携協力の概要（問22 - 1）

- ・スポーツの合同大会、市民活動団体の情報交換など同じテーマで活動する団体間の連携が多くみられた。
- ・「つどい」をきっかけとして様々な団体とつながりができたといった事例もある。

【同じテーマで活動している団体との連携】

- ・各種大会、近隣チームとの交流大会。
- ・交流試合、グラウンド借用、合同練習、講習会など。
- ・母体の一致している団体との連携、活動内容の連絡。
- ・障がい者団体との意見交換、情報提供。
- ・人権をテーマに活動するネットワーク、地域の民生委員の広場への協力・連携（個人のつながりからスタート）、高校との連携、保育所・国へのワークショップ提供など。
- ・大阪府で同じテーマで活動している団体はネット情報などで。類似テーマ、高齢者、大学、行政はテーマごとに行っている。

【異なるテーマで活動している団体との連携】

- ・他団体（八尾市内）からの依頼、商店主からの依頼、子どもたちへの外国語指導。
- ・市民活動の参加、展示（プリズムホール、市役所）、ボランティアの参加（社会福祉協議会の依頼、委員に参加）。

【地域活動団体】

- ・地域によっても差はあるが、地域団体のメンバーとして催しに参加している。

【行政】

- ・山本図書館。
- ・協議会（行政、学校、大学）、流域ネットワーク（大和川、寝屋川、恩智川）。設立時よりメンバーとして参加。
- ・ビジネスマッチングのコーディネーターや、中小企業庁の中小企業かけこみ寺のアドバイザーを行っている。
- ・行政、地区福祉委員会、自治振興委員会と連携しながら各事業を進めている。

【幼稚園・保育所、学校との連携】

- ・出会いのきっかけ。農園のみなさんと幼稚園の先生みなさんが「地域に根ざすふれあい活動」とは何かを議論され、世代間交流に取り組む結論となり計画され、今日まで進んできた。
- ・直接交渉に行く。知人の世話で幼・小・保実演。
- ・介護施設のイベント参加、大学生の研究（論文など）協力、地域の会合。
- ・紹介、活動への参加がきっかけ。ワークショップの実施などをしてもらったり。大学に関してはインターンシップの受け入れ。

【「つどい」をきっかけとした連携】

- ・ 地域活動を始めてNPO活動に参加、「つどい」を知って様々な団体と連携を取れるようになった。
- ・ 「つどい」にて知り合った方々と、市民活動を通じて少しでもつながれる方々と協力。

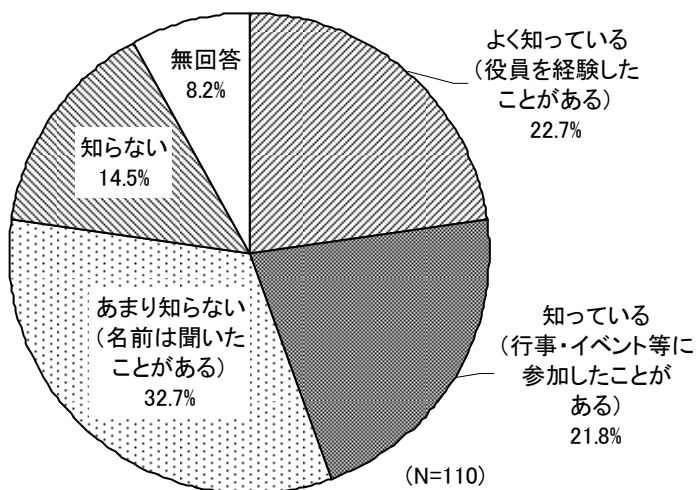
【その他】

- ・ 企画会議、イベント。
- ・ 出演、講座など依頼あればできる限りそれに応えている。

(2) 地域活動団体の活動状況の認知度（問23）

・地域活動団体の活動状況について知っている（「よく知っている」「知っている」）団体は44.5%となっている。一方、活動状況を知らない（「あまり知らない」「知らない」）団体は47.2%となっている。

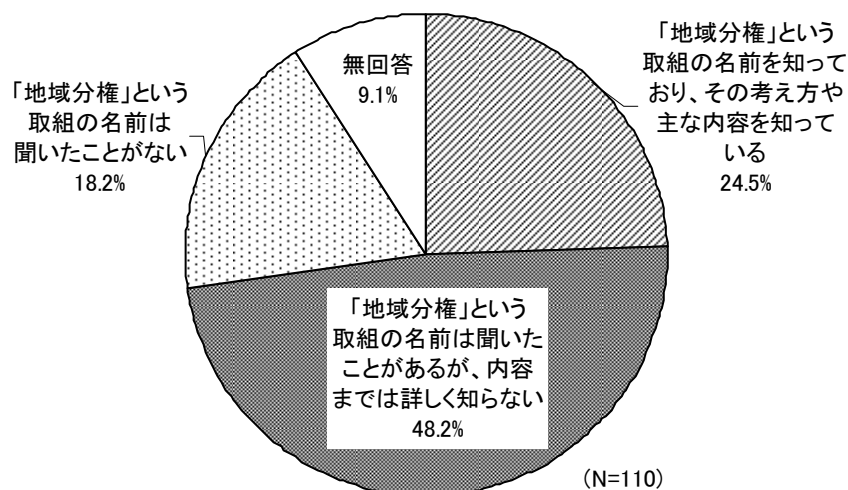
図表 35 地域活動団体の活動状況の認知度



(3) 地域分権の取組の認知度（問24）

・「地域分権」という取組の名前は聞いたことがあるが、内容までは詳しく知らない」との回答が48.2%と、半数弱を占めている。

図表 36 地域分権の取組の認知度

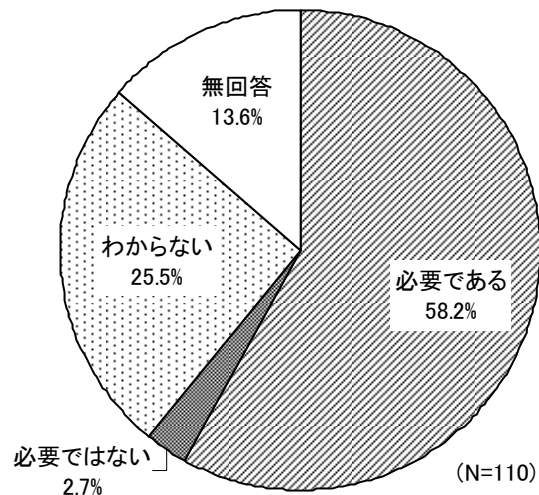


(4) 地域活動団体との連携協力の必要性

a) 市民活動を進めていく上での地域活動団体との連携協力の必要性（問25）

・地域活動団体との連携協力が「必要である」と回答している団体が58.2%となっている。

図表 37 市民活動を進めていく上での地域活動団体との連携協力の必要性

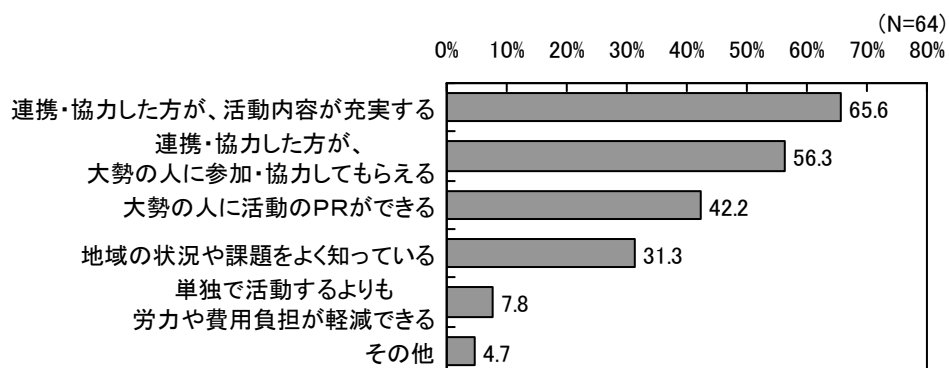


b) 地域活動団体との連携協力が必要と考える理由（問25-1）

・「連携協力した方が、活動内容が充実する」が65.6%と最も多く、次いで「連携協力した方が、大勢の人に参加協力してもらえる」が56.3%となっている。

図表 38 地域活動団体との連携協力が必要と考える理由

（「必要である」と回答した団体ベース、3つまで回答）



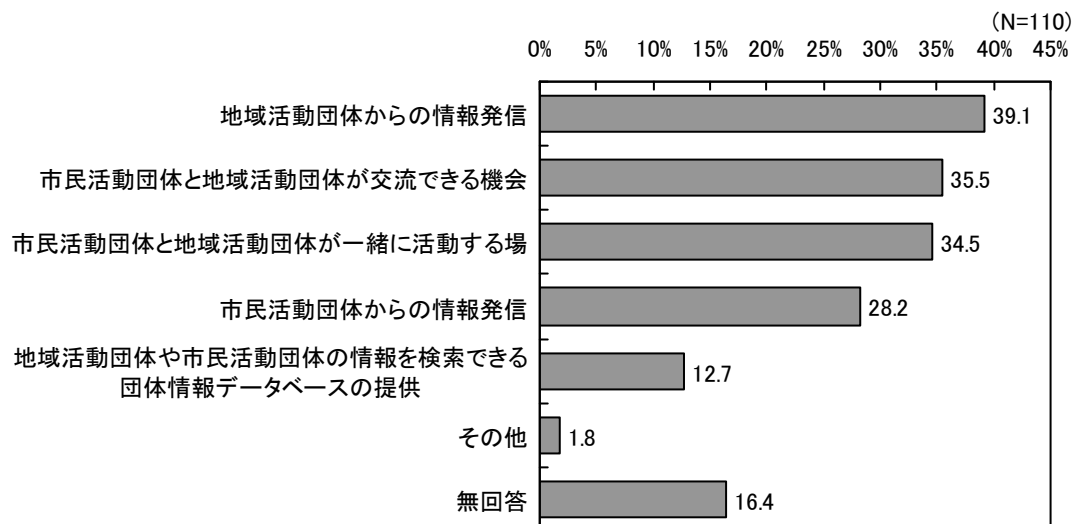
【「その他」の回答内容】

- ・人とのつながりの機会を増やす。
- ・困っている人を助ける、こぼさないようなセーフティネットとなる。
- ・まちづくりは地域の人々が主体となってやるもので、テーマ型団体が主導するものではない。

(5) 地域活動団体との連携協力のために必要な取組（問26）

・「地域活動団体からの情報発信」が39.1%と最も多い。次いで「市民活動団体と地域活動団体が交流できる機会」が35.5%、「市民活動団体と地域活動団体と一緒に活動する場」が34.5%となっている。

図表 39 今後、市民活動団体が地域活動団体と連携協力していくために必要な取組
（3つまで回答）



【「その他」の回答内容】

- ・連携を強いることなく、双方が必要とする場合に介助をしてもらえばよい。
- ・地域活動団体の中で女性の生き方を話し合う講座や参加型話し合いのできる場を持つてほしい。

(6) 地域活動団体等と連携協力する場合に提供できること（問26）

- ・イベントなどを実施する際、運営スタッフまたは参加者として関わるができる、または団体の活動によって集客の手伝いができるといった団体がみられた。
- ・団体の持つ専門性を活かして、出張活動や指導・研修などを行うといった協力ができる団体が多くみられた。
- ・子どもたちの教育活動への協力ができるという団体も多くみられた。

【地域活動への協力】

- ・バザーやイベントの協力ができる。
- ・イベントに参加してもらえる。
- ・イベント。ボランティアで講習会をし、生きがいや健康を支援。
- ・紙芝居、芋掘り、講演会。
- ・地域の文化芸術に対して指導できる。
- ・セルフネグレクトを引っ張り出して当会の活動に参加してもらい、意欲を戻す指導が当会の理念で、本人または周囲からの連絡があればと思っている。
- ・介護施設や地域行事に公演協力。
- ・水呑地蔵尊登山道の草刈りなど、補助作業（刈り草の集積ほか）。
- ・道路清掃、植木鉢のペインティング。
- ・地域活動のイベントに演奏会開催を盛り込み、集客力アップと幅広い層の参加が期待できる。
- ・占いイベントのボランティアを行っているので、人に集まってほしいイベント（敬老会や献血、成人式など）に参加できる。
- ・まちづくりに関するサポート。
- ・一緒に活動することにより、その地域の人たちの意識を高めることができる。
- ・地域の状況を把握できる。

【専門性を活かした協働】

- ・視覚障がいの方のためのもので範囲が狭く、外に出での活動ではないので内にこもっている状態である。もっと点字に対する啓発を行いたい。地域での点記希望の方に協力したいと思っている。
- ・視覚障がい者の日常生活における不便、悩み、楽しみなど、地域で豊かに充実した生活を送るためにどのような努力をしているか、みなさんにお話しし、みなさんからどのような支援をしてもらおうと助かるかなど、理解してもらいたい。
- ・手話にふれてもらうこと。
- ・アルコール依存症という病気にならないための気づきのアドバイスを出前講演すること。
- ・健康に関する情報提供、セミナーなど。
- ・健康体操などの体験型のイベントをしているので、自由に参加して頂ける。それぞれの教室へ体験レッスン参加ができる。教室の紹介。
- ・いろいろなイベントにてアニマルセラピー犬をウェルカム犬として利用させて頂き

- たい。特に障がい者施設などでの行事でのウェルカム犬としてふれあいを希望する。
- ・ 将来学校の先生や障がい児に関わる仕事を希望されてる方の勉強の場として支援できる。
 - ・ 登山・ハイキングに関する指導（技術）案内や、自然環境を守る活動。
 - ・ ラグビー体験教室。
 - ・ スポーツ全般を指導できる。
 - ・ 体験学習、講演などの支援。
 - ・ 出張ボランティアできます。人形劇、お話し会など。
 - ・ 歌の指導者やアコーディオン奏者の派遣も可だが、本人の日程や費用の都合もある。即提供はできない。
 - ・ 里山近くに住みながら全くその整備活動を行ったことのない人々にお教えできる。
 - ・ 人権研修の支援。
 - ・ 今のところ活動内容など再検討中のため提供できることはないが、コミュニケーション・人間学についてのお話はできるかもしれない。
 - ・ ホームページの案内。
 - ・ パソコン体験。
 - ・ 議事録、ニュースレター、ウェブづくり。
 - ・ 様々な分野でのNPOの活動事例や、包括的な活動とネットワークの視点。

【子どもたちへの教育活動への協力】

- ・ 子どもたちの体操体験は支援できる。
- ・ 少年野球教室。
- ・ 夏休みなどで、親子でフラワーアレンジメント制作体験などを指導できる。
- ・ 子ども会の催しの一端を担う（例：クラフト、バルーンアート、注連縄リースなど）。
- ・ 子どもたちと一緒に、その場でできる人形劇を作って遊ぶ。
- ・ 子どもとの遊び、母親へのワークショップ、イベントの企画や進行、一時保育の有償ボランティアなど。
- ・ 親子教室のイベント、おもちゃつき、クラフトなどに参加してもらい、子どもたちと協力してイベントを盛り上げることができる。
- ・ 子育て広場に中学生のボランティアクラブの人にも来てもらう。わくわく教室の子どもを近所の高齢者施設に連れて行って交流する。今後資金ができればやりたいことは、小学校の余裕教室で放課後、教育大の学生や以前に先生をしていた方などに来て頂き、小学生や中学生の勉強を見てもらったり、居場所づくりをしたい。
- ・ 子どもたちへの外国語（英語・中国語）学習支援。

【その他】

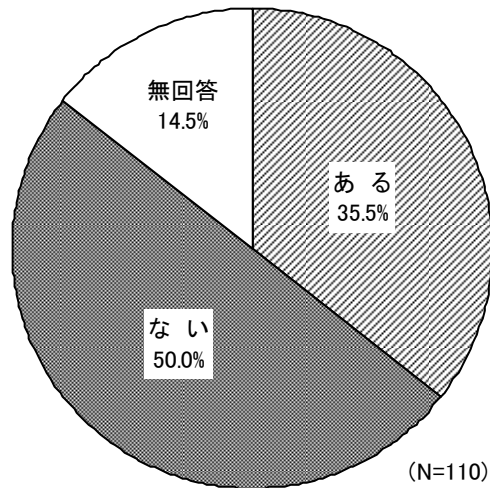
- ・ 情報発信。
- ・ 情報提供。
- ・ 身近な水環境についての情報提供や、河川での観察会支援。
- ・ 地域で環境改善の体験学習をしたい。
- ・ 自然とのふれあい。

- ・ 史跡めぐりへの一般参加を支援できる。
- ・ 紙芝居実演での支援。
- ・ 朗読、読み聞かせ活動をしているので、高齢者施設などで新聞を読み聞かせたり、読書支援ができる。
- ・ 多彩なボランティア資源を持った人材が多いため一端を挙げると、高齢クラブにおける運営などに関わっている。ディスコン、歌体操、スリーA、フルート伴奏での歌唱、おもちゃ作り（人材豊富）、小物作り、自然素材の物作り、マジック指導、絵手紙、押し花作品作り、おもしろ算数教室（算数パズル）、アニマルセラピーなど。
- ・ ボランティアグループの団体なので、既に様々なボランティア活動支援を行っている。
- ・ 他者愛により一人一人を心から大切に、一人一人の幸せを心から願って協力。人格者育成。

(7) 行政との協働状況（問27）

・行政と協働したことが「ある」と回答した団体は35.5%で、「ない」が50.0%となっている。

図表 40 行政との協働経験の有無



【協働の概要】

- ・ウイングのオープニング時、記念大会で協賛した。他に毎年春秋の市民大会体操の部に参加協力している。
- ・スポーツ、文化活動の行事は行政と協力してやっている。
- ・ラグビー体験教室。
- ・体力テストの開催に協力。市民博のイベントの一つとして体験レッスン型のイベントを開催。ウイングの柿落としの発表イベント。
- ・図書館でのお話し会、人形劇、プリズムホールでのイベント参加、手作り指導。
- ・「つどい」での茶点講師。
- ・アロマキャンドルの体験会への講師派遣。
- ・八尾市制60周年記念イベントに参加（ウェルカム犬）。「つどい」や社協でも市民活動などには必ず参加している。
- ・八尾市制60周年大会での協力。
- ・昨年度から今までの例：介護職員初級研修、大阪府ボランティア連絡会15周年記念事業、大阪府社会福祉協議会宿泊研修。
- ・毎年点字講習会をしている（12回）。
- ・生活介護事業を行っている。
- ・事業委託を受けて人権研修などを実施している。
- ・ヒューマンフェスタなど。
- ・リサイクルフェスティバルなどの市内での環境フェスの立ち上げ。
- ・環境アニメイテッド、自然楽校。
- ・市のみどり課管理の里山の整備。
- ・市役所の成人式、献血ルーム。
- ・ビジネスマッチングのコーディネーターや、中小企業庁の中小企業かけこみ寺のアドバイザーを行っている。市の産業振興市民としての参加など。

- ・ 後援依頼、物品提供、交通費助成、広報記載、物品借用。
- ・ 講演会の開催。
- ・ 講座の実施。
- ・ 行政からの依頼出演など。
- ・ 市の行事での公演。
- ・ イベントなどは常に実行委員会形成で行政と共に行っている。
- ・ キャンペーンの際に一緒に自転車の整理をした。交通安全教室などへの参加。
- ・ 情報提供・発信。
- ・ 情報発信、ワークショップ進行、広場運営、会議の委員として参加など。
- ・ フォーラムを社会福祉協議会と共催。市民委員。
- ・ まちづくり教室への参加。
- ・ 親善訪問団事業を協働で行った。
- ・ 委託事業の受託（地域通貨活用による地域活性化促進事業）。
- ・ 事業受託。
- ・ 八尾市民活動助成金を活用した。

(8) 行政と協働して「良かったこと」「苦労したこと」「工夫したこと」、「協働しない理由」「協働できない理由」など（問27）

- ・良かったこととしては、団体の信用度が高まることや、広く広報ができる、参加者が増えて活動に広がりがあるといった意見がみられた。
- ・苦労したこととしては、職員の異動が多く、引継ぎもしっかりされないため、持続的な関係が気付けないことや、活動への理解を得にくいといったことがみられた。
- ・行政と協働しない・できない理由としては、どのようにすれば行政と協働でできるかわからない等が挙げられている。

【良かったこと】

●団体の信用度が高まる

- ・協働することで団体の信頼度が高まる。
- ・協働することによって信頼・信用面にプラスとなった。
- ・個人ではいくら頑張っても活動が伝わらないが、行政と協働すると少し活動を認めてもらえる。
- ・信用度が上がる。

●幅広い広報が可能になる

- ・団体だけよりも、より多くの市民に広報できる。
- ・活動が多くの市民に知られ、幅広い人の参加が進むため。
- ・市内での認知度が上がる。ネットワーク（連携の範囲）が広がる。広報が楽になる（市政だよりが使える）。
- ・広報を行政側で行ってくれる。活動費の助成があり、充実していた。
- ・広報を広くして頂ける。

●参加者が増え、活動に広がりが出る

- ・コミュニケーションについて、自分も相手も認め合うことの楽しさを体験してもらえたと思う。また、準備など参加者の募集も含めてして頂き、とても助かった。
- ・活動をスムーズに行えた。活動が広がった。
- ・地域で生きていく障がい者に対して身近に感じてもらえる機会。

●その他

- ・いろいろな市民の意見や感謝の言葉を頂けた。
- ・多くの子どもたちとのふれあい、スタッフが楽しんでいること。
- ・お客様が喜んでくれること、そのイベントに向けて来てくれるお客様がいてくれること。
- ・行政との協力なしでは、当会だけでは行事はできない。
- ・会場確保ができることが良かった。
- ・職員の方の仕事に対する取り組み方が理解できたこと。
- ・定例化している毎年6月の高安山清掃ハイキング、ハイキング道の整備など後援をして頂き、好意的で30年も続いている。好評である。

【苦勞したこと】

- 職員の引継ぎができていないため関係が持続しない
 - ・1～2年で職員の異動があり、よく再説明をする。引き継ぎはきっちりしてほしい。
 - ・人事異動で職員同士の引き継ぎがうまくいかない時は、持続・継続が難しい時が多い。
- 団体を理解してもらいにくく、意見が合致しない
 - ・意見が合わないで苦勞した。職員が非協力的。
 - ・現場のことをわかってもらっていないと思う。行政にやる気がないのではないか。
 - ・団体の特徴を全面的に出しづらい。
 - ・教室の趣旨を理解してもらおうのがなかなか難しいと思う。
- 参加者が集まりにくい
 - ・講習会になかなか人が集まらないこと。人数が少なくても毎年開催することが大切なこと（一人前になるには年数が必要なこと）を知ってほしい。もう少し回数を増やしてほしい。
 - ・参加人数が集まらないこと。
 - ・行政からの情報を市民にわかりやすく解説することに若干苦勞した。
- その他
 - ・単年度事業であることが足を引っ張ることがある。
 - ・活動に制限がかかる。
 - ・賛助資金の不足。

【工夫したこと】

- ・接触プレーが多く危険と思われがちなラグビー競技の楽しさを、初心者の子どもや保護者にどのように伝えられるか。

【行政への要望】

- ・行政の「公平・中立」とNPOのフットワークの軽さのバランスをうまく取ればよいし、苦勞しない。コミュニケーションが大切で、いかに時間を使ってもらうか。「協働」の定義認識の共有化ができれば協働は可能。
- ・行政と中小企業との接点としてのNPO法人の必要性を具申した。
- ・里山は多くの地権者・山主が存在し、例え一種放棄林的荒れ地でも、勝手に整備作業はできない。しかし市への管理委託地となっている里山は整備作業を問題なく行える。願わくば放棄林的地権者や山主は市への管理に委ねることを望む。

【協働しない・できない理由】

- ・何をされているのかよくわからない。行政は平等が基本なので、市民活動団体の中の一つを特別に扱うことは難しいのだろう。市役所や社会福祉協議会は平日の昼しかオープンしていないので、仕事をしている者にとっては基本的に難しいのかもしれない。
- ・行政と協働するとして、どのような道順を経たらできるのかがわからない。
- ・行政の事業共催・委託などの情報の入手方法がわからない。当会でできることがあれば、応分の協働は参加したい。

- ・どのようにすれば行政と協働できるのか、よくわからない。
- ・行政から作り上げられてきた女性の取組み講座だったのに、その後のフォローがない。もう少しつなげていくことをしなければ、女性の地位向上といってもならない。
- ・そのような機会がなかった。
- ・私たちとしてはやりたいところだが、まだあまり知ってもらっていないと思う。もっと私たちのできることやしていることをアピールしなければと思っている。
- ・当団体は完全なボランティア活動をめざしているグループで、今までは本部からも指示もなく私たちが進めてきた。本部との調整が必要だと思う。
- ・患者の会である特質上、健常者には理解を得られない点が多く、協働が困難な場合が多い。
- ・行政に頼らない活動を念頭に置いている。
- ・今後は八尾市のためには活動したくない。ボランティア募集をも行政に拒否されている（公共施設などでの広報の拒否）のに、なぜ八尾市のためにしないといけないのか。行政が当団体（法人）を拒否している以上、当法人が協働する理由がない。

(9) 市民活動の活性化や「つどい」の今後のあり方等に関する意見（問28）

- ・「つどい」に対しては、登録団体間の連携の促進や、情報発信・広報での支援、施設・設備利用に関するニーズなどが多く見られた。
- ・行政に対しては、広報への協力、活動のコーディネート、資金面での支援などのニーズが多く見られた。

【「つどい」に対する意見】

●団体紹介・マッチングについて

- ・各障がい者団体の概要など紹介して頂き、市民が少しでも障がい者に目を向け理解してくれる手助けになってくれればありがたい。
- ・A会がサポートを必要としている時、それに応じられるB会を紹介してくれるなどを望む。現行の印刷機の使用制度は最も良い。2階の会議室は使用料を取ってはどうか。イベントを再々しない方がよい。
- ・登録団体同士の連携と、自主的な活動で共通・単独を問わず課題を解決していく仕組みづくりが必要である。「つどい」にはその課題解決の支援をお願いしたい。市民団体の連合会づくりが必要と考える。
- ・ボランティアで活動している市民団体の会員募集や紹介に力を入れてほしい。
- ・個々の活動内容を「つどい」のホームページ・ブログなどでどんどん発信してほしい。
- ・市政だよりと重複、入り乱れての案内が多く、「つどい」の内容がわかりやすいので、各団体の活動は毎月一本化できないのかと思う。私たちは共通・共有できる活動には会員に案内して参加を呼びかけている。
- ・特定の団体の特集ページの枠を減らし、もっと我々や他の登録団体の名前、活動内容、連絡先を常時印刷してほしい。ハンドブックだけでは一般の市民の方が見たり知ってもらえる機会が少ない。
- ・市民活動を続けていく上で必要なのは人と場所と資金なので、それについての情報提供や直接的支援、必要とする個人や団体とのマッチングの場などつくって頂けたらありがたい。会議の場所を無料で提供して頂いたり、印刷を安くでさせて頂いたり、いろいろな情報を頂いていることなど本当にありがたく思っている。

●情報発信について

- ・他市の情報などが発信できていない。「つどい」と他市との中間支援との連携がないように思う。専門的なことの相談ができない。ニュースが面白くない。もっと工夫すべきである。
- ・私を含め仕事を持っている人が多いので、情報は早めに、時間など詳しく知りたい。できれば直接代表者に連絡してもらいたい。
- ・私たちの活動内容が行き届いていないため、実演してもほとんど身内でかき集めた参加者で、なかなか受け入れてもらえない。「つどい」で協力してもらっているが、広がり幅が狭いように思える。

●施設・設備利用について

- ・「つどい」の会議室をもっと柔軟に利用できるようにしてほしい。制約が多く、空いているのに使えない。

- ・会議室利用の時間を長くしてほしい。
- ・月・火曜日も利用可能にしていきたい。
- ・パソコンを利用しやすくしてもらいたいと思う。
- ・2日も休みというのはいかがなものか。活動の会場確保に協力してほしい。コミセンなどは制約があるので借りられない。「つどい」の機関誌で各団体のスケジュールなどを知らせてほしい。
- ・2ヶ月に1回ぐらいだが、場所、プロジェクターほかお借りでき、みんなが楽しめる会合ができてとても助かっている。
- ・コピーや印刷機、ラミネート等々、個人の資金のない団体としてはなくてはならぬ場所である。現在当団体は「つどい」のお蔭でいろいろなイベント、ファミサロンへの参加など大変助かっており、今後の発展に行ってほしいと思う。
- ・コピー（印刷）を取らせて頂き、ありがたい。

●その他

- ・各種講座の提供充実。
- ・将来を見据えた取組で運営に当たって頂きたい。
- ・もっぱら印刷作業に利用させて頂いている。今後はハード面ばかりでなく、活動面でもご支援頂けることを期待する。
- ・せっかく団体としての登録をしているのに、地元地域で活動場所が確保できず、特に何の活動もできていない。今のところ他の団体に参加する形で過ごしている。自然と遊ぶという形では高安山がベストなのかもしれない。
- ・決まったグループのみが利用している。事務所があるので「つどい」を利用することがなく、情報を共有しにくい。もっとメリットがあればギブアンドテイクで利用していきたい。
- ・「つどい」は信用できない。
- ・「つどい」がどのような方法でやっておられるのか、あまりわからない。
- ・「つどい」のことを知らない人が多いと思う。市政だよりなどで時々紹介してはいいがか。
- ・話の内容など、知らない人がたくさんいると思う。「つどい」の広報も必要かと思う。
- ・「つどい」の存在そのものを知らずにいた。当団体でも登録団体の一つであるなら、「つどい」の活動状況・内容を定期的に各登録団体へ連絡頂けないか。
- ・現サービスなどで非常に満足している。
- ・困った時に相談できる場所として、大いに期待している。
- ・中間支援組織としてようやくスタートを切ったと思っている。今後とも登録団体として協力をし、共同創造をしていきたい。
- ・現状でよいが、参加しきれていない時間制約との兼ね合い具合が難しく思える。
- ・「つどい」事務所の雰囲気が冷たい気がする。

【行政に対する意見】

●広報に関する支援ニーズ

- ・地域福祉活動を通して様々なボランティアや市民活動を周知してもらい、多様な市民ニーズを捉え、反復的に活動団体へ情報提供などしてほしい。
- ・市民活動と行政への協働、広報の支援、会場・機会の提供の支援。

●活動のコーディネートに関する支援ニーズ

- ・コーディネーター役。
- ・地域とのコーディネートを密にしてほしい。登録団体との話し合いの場を時々持って頂いて、意見を聞く場を持ってほしい。
- ・個人の団体と公的機関のつながりにもっと協力して頂きたい。
- ・ボランティアの指導者がほしい。市政だよりも載せてほしい。支援制度の応募方法を教えてほしい。活動場所（運動場、体育館など）が全くない。予算をつけてほしい。八尾市全体のスポーツ祭を開催してほしい。市民ふれあい課でNPO法人を集合させて月1回会議して、どうしたらよいか市民と市政とNPO法人で考えたい。

●助成・優遇に関する支援ニーズ

- ・公共施設の使用について、優遇や助成があればよい。
- ・趣味のサークルの支援ではなく、社会を良くする信念を持った団体の支援・連携の事業を充実させること。そのための資金、人材の拡充を図ること。

●その他

- ・八尾市のボランティアへの取組は高齢者福祉しか認めていない。中間支援としての役割を忘れずに。行政が中間支援としての立場を生かせるように、制約をなくすことが必要。
- ・「継続は金なり」という言葉があるが、団体活動40年という我が会に対する認識が薄いのでは。それなりの苦労がある。その苦労軽減に手を差し伸べてほしい。八尾市の知名度にも協力しているつもりだが。
- ・行政の堅さをなくすことが大切だと思う。もっと親しみある方向性が必要である。
- ・市民は元気に活動している。行政が責任のことばかりでやりたくないのでは。
- ・八尾市行政の手の届かない部分へのNPOなど市民活動との協働化が行政コストの低減となっていく。行政は公平さを言うよりも、できる部分から活動していかないと、いつまでも何もしない結果になってきた。

【その他】

- ・難しい。無理せずボチボチと。人が行う活動はお互いの信頼が第一である。
- ・コース・サークルの連合体のため体験参加には協力できないが、個々のサークルなら協力できる所もあるのでは。
- ・協力はするが、高齢で限度。
- ・70人規模の団体で、全て役員などで行事の進行をしているため、特段に行政と連携する必要はない。
- ・私たちの団体は年間500円の会費で運営している。会場を借りるにも金銭的に無理である。もっと安心して活動する場所があればと思う。場がなければ活性化につながり

にくい。

- ・ 八尾市内の市民活動が発展するように、支援をお願いしたい。
- ・ 横のつながりがあるようでないような感じに思える。もっとたくさんの団体が協力し合えばよい。
- ・ 若い人が興味を持ったり参加してくれるように、働きかけを強化してほしい。

八尾市市民活動ネットワークセンター「つどい」の 充実に向けてのアンケート

1. 貴団体の概要をお聞かせください (○印はまたは数字等を記入)

①設立年度	() 年度
②団体の種別 (○印は1つ)	1. <u>任意団体</u> 2. NPO法人 3. その他の法人 ↓ 【1. 任意団体と回答された場合】 ②-1 NPO法人の法人格の取得意向をお聞かせください。 1. あり 2. なし 3. わからない
③主な活動分野 (○印は1つ)	1. 保健・医療・福祉 11. 国際協力 2. 社会教育 12. 男女共同参画社会の形成促進 3. まちづくり 13. 子どもの健全育成 4. 観光 14. 情報化社会の発展 5. 農山漁村・中山間地域の振興 15. 科学技術 6. 学術・文化・芸術・スポーツ 16. 経済活動の活性化 7. 環境保全 17. 職業能力開発・雇用機会拡充 8. 災害救援 18. 消費者保護 9. 地域安全 19. 市民活動団体の運営に関する支援 10. 人権擁護・平和推進 20. その他 ()
④活動内容 (自由記入)	
⑤活動拠点 (○印は1つ)	1. 事務所あり (場所: 市・町・村) 2. 事務所なし (代表者自宅等)
⑥活動頻度 (○印は1つ)	1. ほぼ毎日 3. 月1～2回程度 5. その他 2. 週1～2日程度 4. 年に数回 ()
⑦予算規模 (2011年度)	1. 10万円以下 3. 100万円未満 5. 1,000万円未満 2. 50万円未満 4. 300万円未満 6. 1,000万円以上
⑧主な収入 (○印は3つまで)	1. 会費 3. 自主事業収入 5. 行政からの委託費 2. 寄附金・協賛金 4. 補助金・助成金 6. その他 ()
⑨専従スタッフ の有無 (すべて○)	1. 専従スタッフ (有給) がいる 3. 専従スタッフはいない 2. 専従スタッフ (無給) がいる
⑩主に活動さ れている方の年代 (○印は2つまで)	1. 20代未満 4. 40代 7. 70代以上 2. 20代 5. 50代 3. 30代 6. 60代

貴団体の代表としてのお考えや活動状況をお聞かせください

問1 団体の設立にあたって、どのようなことが課題でしたか？（○印は3つまで）

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 団体の設立手続きがわからない | 6. 活動機会の確保 |
| 2. 団体設立のための書類の作成 | 7. その他（ ） |
| 3. 協力してくれるメンバーの確保 | 8. 特に課題と感じたことはない |
| 4. 活動資金の確保 | 9. 団体設立当時のことを知らない |
| 5. 活動場所（拠点）の確保 | |

問2 代表として、どのような時に、活動の“やりがい”を感じますか？（○印は3つまで）

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1. 利用者から感謝されたとき | 6. 外部から視察や問い合わせがあったとき |
| 2. 利用者や参加者が増えたとき | 7. 外部から表彰を受けたとき |
| 3. メンバーがいきいきと活動しているとき | 8. その他（ ） |
| 4. 家族・友人等から応援や励ましを受けたとき | |
| 5. 市の広報やマスコミで活動がとりあげられたとき | |

問3 代表として抱えておられる課題をお聞かせください。(○印は3つまで)

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 活動に占める時間の負担が大きい | 5. NPO法等の関連制度がわかりにくい |
| 2. 責任が重い | 6. 書類作成の負担が重い |
| 3. 後継者が育たない | 7. その他（ ） |
| 4. 個人の金銭面の負担が大きい | 8. 特に課題はない |



課題を解決するために行っている取組をご紹介します

--

問4 団体の設立目的の達成状況は何%ぐらいでしょうか。あなたのお考えに最も近いものを選んでください。(○印は1つ)

1. 80%以上 2. 60%以上 3. 40%以上 4. 20%以上 5. 20%未滿

達成状況を上記のように考えられた理由をお聞かせください

貴団体の活動状況や活動に関する課題をお聞かせください

問5 団体の人材に関する課題をお聞かせください。(○印は2つまで)

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 役員(理事)のなり手がいない | 4. 専門的な知識・ノウハウの不足 |
| 2. 事務処理・会計に慣れている人がいない | 5. その他() |
| 3. 運営を手伝ってくれるスタッフが不足 | 6. 特に課題はない |

↓課題を解決するために行っている取組をご紹介します

問6 団体に参加してほしいのはどのような人材ですか?(○印はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1. 若い人材(学生など) | 5. 広報が得意な人(ニュースレターの作成等) |
| 2. ビジネス経験が豊富な人(リタイア層など) | 6. 自動車の運転ができる人 |
| 3. ITに強い人(パソコン、インターネット等) | 7. その他() |
| 4. 事務の経験がある人(書類作成、会計等) | 8. 特に必要としない |

問7 広報や参加者に関する課題をお聞かせください。(○印は2つまで)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 広報が十分に行えていない | 4. 市民活動に対する社会の認知が低い |
| 2. イベント等の参加者が少ない | 5. その他() |
| 3. 利用者・参加者が固定化している | 6. 特に課題はない |

↓課題を解決するために行っている取組をご紹介します

問8 貴団体ではどのように情報発信をしていますか?(○印はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1. ニュースレター(広報紙)の発行 | 5. 「つどい」や市の広報紙への記事掲載 |
| 2. ホームページやブログ等の運営 | 6. その他 |
| 3. メールマガジンの発行 | () |
| 4. 公共施設等でのポスター掲示やチラシの配布 | 7. 特にしていない |

問9 団体の運営に関する課題をお聞かせください。(○印は3つまで)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 会合や催しを開く会場が確保しにくい | 6. 他の団体との連携があまりできていない |
| 2. 活動する機会が確保しにくい | 7. 様々な支援制度が活用できていない |
| 3. 社会貢献的な活動が少ない | 8. その他() |
| 4. 活動資金が不足している | 9. 特に課題はない |
| 5. 行政との連携があまりできていない | |

↓課題を解決するために行っている取組をご紹介します

1. 会員の募集
2. 寄附金の募集
3. 事業収入の増加
4. 助成金・補助金等の申請
5. その他 ()
6. 特に何もしていない

1. 申請し、採択されたことがある ⇒ 問 12 へ
2. 申請したが、採択されなかった ⇒ 問 11-1 へ
3. 申請していない ⇒ 問 11-2 へ

1. 事業の企画が難しい
2. 考えやアイデアを文章にまとめるのが難しい
3. 審査会におけるプレゼンテーションが難しい
4. その他 ()
5. 特にない

1. そのような制度があることを知らなかったため
2. 申請手続きが大変そうに感じるため
3. 他の助成金等の制度を使っているため
4. その他 ()
5. 特に資金不足を感じていないため

1. 収益事業の充実・拡大
2. 会員数の充実・拡大
3. 活動内容の充実・拡大
4. 行政との協働の充実・拡大
5. 他の団体との連携・協力の充実・拡大
6. 事務局体制の充実・拡大
7. その他（ ）
8. 事業内容や活動規模の縮小
9. 特に考えていない

**市民活動支援ネットワークセンター「つどい」では機能強化を目指しています。
～どのようなサービスの充実が望まれるか、ご意見をお聞かせください～**

問 13 市民活動支援ネットワークセンター「つどい」が果たす役割として、次に示す①～⑤の役割はどの程度重要と思われますか。(項目ごとに○印は1つずつ)

	大変重要	重要	やや重要	重要でない
<記入例> ①個々の団体の活動支援	①	2	3	4
①個々の団体の活動支援 (情報提供、相談、研修、資金確保支援など)	1	2	3	4
②個々の団体の情報発信 (団体の活動紹介、活動の表彰など)	1	2	3	4
③市民活動に関わる層の拡大 (ボランティアの育成など)	1	2	3	4
④様々な団体のつながりづくり (協働のコーディネートなど)	1	2	3	4
⑤市民活動を活発するための行政への政策提案	1	2	3	4

A: セミナーや相談について

問 14 どのようなテーマのセミナーの開催を希望されますか。(○印はいくつでも)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. ボランティア入門 | 7. 広報 |
| 2. NPO法人格の取得 | 8. IT活用 (パソコン、HP等) |
| 3. 組織・団体運営・マネジメント | 9. 資金確保 |
| 4. 理事会の運営 | 10. 他の団体との連携・協働 |
| 5. 会計・税務 | 11. その他 () |
| 6. 労務管理 | 12. 特にない |

問 15 専門家に気軽に相談できるなら、どのようなことを相談したいですか。(○印はいくつでも)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. ボランティア入門 | 7. 広報 |
| 2. NPO法人格の取得 | 8. IT活用 (パソコン、HP等) |
| 3. 組織・団体運営・マネジメント | 9. 資金確保 |
| 4. 理事会の運営 | 10. 他の団体との連携・協働 |
| 5. 会計・税務 | 11. その他 () |
| 6. 労務管理 | 12. 特にない |

問 16 どのような時間帯に開催されると、セミナーや相談に参加しやすいですか。(○印は3つまで)

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 1. 平日午前 | 4. 土曜午前 | 7. 日曜午前 |
| 2. 平日午後 | 5. 土曜午後 | 8. 日曜午後 |
| 3. 平日夜間 | 6. 土曜夜間 | 9. 日曜夜間 |

B:活動にあたって必要となる情報や情報発信について

問 17 団体の運営にあたってどのような情報を必要とされていますか？（○印は3つまで）

- | |
|--|
| 1. 他の市民活動団体の取組に関わる情報（活動事例など） |
| 2. 市民活動に関心を持っている人の情報（ボランティア希望者など） |
| 3. 講演会やセミナー、イベントなどの情報（市民活動や専門分野に関わる内容） |
| 4. 市民活動に対する行政等の支援制度に関わる情報 |
| 5. 助成金・補助金に関わる情報 |
| 6. 組織運営ノウハウに関わる情報（NPO法、組織運営、会計、広報など） |
| 7. その他（ ） |
| 8. 特にない |

問 18 情報発信に関連して、どのような支援を希望されますか？（○印は3つまで）

- | |
|---------------------------|
| 1. 公共施設等でのポスターやチラシの掲示の支援 |
| 2. 見栄えのよいチラシやポスターの作成方法の指導 |
| 3. よみやすい広報紙の作成方法の指導 |
| 4. ホームページやブログ等の作成支援 |
| 5. 写真や動画の撮影や編集方法の指導 |
| 6. その他（ ） |
| 7. 特にない |

C:活動にあたっての必要となる資金の確保について

問 19 資金確保にあたってどのような支援を希望されますか。（○印は2つまで）

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 助成金・補助金等の公募情報の提供 | 4. 「つどい」独自の活動資金の助成 |
| 2. 助成金・補助金等の応募資料の作成指導 | 5. その他（ ） |
| 3. 資金確保に関するセミナーの開催 | 6. 特に必要としない |

D:市民活動に関わる人材の育成について

問 20 市民活動の人材育成・確保にあたって、どのような支援を希望されますか。（○印は2つまで）

- | | |
|------------------------------|-----------|
| 1. 市民活動への関心をもつ層を増やす講座等の開催 | 5. その他（ ） |
| 2. 個々の団体と参加希望者とのマッチング | 6. 特にない |
| 3. 「つどい」のホームページや広報紙での人材募集の支援 | |
| 4. 会計、監査などの専門性を持つ人材の紹介 | |

問 21 市民活動に参加する層を増やすための方法として活動への「体験参加」という方法があります。「つどい」が今後「体験参加」を実施する場合に、体験希望者の受け入れにご協力いただくことは可能ですか。（○印は1つ）

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 協力できる | 2. 協力できない |
|----------|-----------|

多様な団体との連携・協力について、ご意見をお聞かせください。

問 22 貴団体では、多様な団体と連携・協力をしていますか？（○印は1つ）

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1. とても活発にしている | 3. あまり連携・協力をしていない |
| 2. 活発にしている | 4. 連携・協力をしていない |

（上記で「1. とても活発にしている」「2. 活発にしている」の回答者のみ回答）

問 22-1 貴団体は、どのような団体と連携・協力をしていますか。（○印はいくつでも）

- | | |
|-----------------------------|-------------|
| 1. 同じテーマで活動している市民活動団体 | 6. 大学 |
| 2. 異なるテーマで活動している市民活動団体 | 7. 福祉施設 |
| 3. 地域活動団体（自治振興委員会、地区福祉委員会等） | 8. 行政（市役所等） |
| 4. 幼稚園・保育所、学校（小・中学校、高校等） | 9. その他（ ） |
| 5. 商店街、事業所、企業 | |

↓連携・協力の概要をご記入ください。（連携・協力先、出会ったきっかけ、連携・協力の内容）

--

問 23 地域活動団体（自治振興委員会、地区福祉委員会等）の活動をご存知ですか。（○印は1つ）

- | |
|------------------------------|
| 1. よく知っている（役員を経験したことがある） |
| 2. 知っている（行事・イベント等に参加したことがある） |
| 3. あまり知らない（名前は聞いたことがある） |
| 4. 知らない |

問 24 八尾市では、「地域分権」と題して、概ね小学校区を地域単位とするまちづくりに取り組んでいます。その取組の一つとして「校区まちづくり協議会（現在は設立準備会）」の取組を進めています。あなたは、このような「地域分権」の取組をご存知ですか？（○は1つ）

- | |
|--|
| 1. 「地域分権」という取組の名前を知っており、その考え方や主な内容を知っている |
| 2. 「地域分権」という取組の名前は聞いたことがあるが、内容までは詳しく知らない |
| 3. 「地域分権」という取組の名前は聞いたことがない |

問 25 市民活動を進めていく上で、地域活動団体（自治振興委員会、地区福祉委員会、校区まちづくり協議会（現在は設立準備会）等）との連携・協力は必要だと思いますか。（○印は1つ）

- | | | | |
|----------|-----------|-----------|----------|
| 1. 必要である | →問 25-1 へ | 2. 必要ではない | 3. わからない |
|----------|-----------|-----------|----------|

問 25-1 地域活動団体との連携・協力が必要と考える理由をお聞かせください。（○印は3つまで）

- | |
|-------------------------------|
| 1. 連携・協力した方が、活動内容が充実する |
| 2. 地域の状況や課題をよく知っている |
| 3. 連携・協力した方が、大勢の人に参加・協力してもらえる |
| 4. 大勢の人に活動のPRができる |
| 5. 単独で活動するよりも労力や費用負担が軽減できる |
| 6. その他（ ） |

問 26 今後、市民活動団体が地域活動団体と連携・協力していくためには、どのような取組が必要と思われますか。(○印は3つまで)

1. 地域活動団体からの情報発信
2. 市民活動団体（NPO、ボランティア等）からの情報発信
3. 地域活動団体や市民活動団体の情報を検索できる団体情報データベースの提供
4. 市民活動団体（NPO、ボランティア等）と地域活動団体が交流できる機会
5. 市民活動団体（NPO、ボランティア等）と地域活動団体が一緒に活動する場
6. その他（

(例) 介護ボランティア活動を行っているため、子どもたちの介護体験学習などを支援できる

※ここでの協働とは、行政との事業の共催、行政からの事業委託などのことです。

1. ある
2. ない

→

(協働の概要)

--

--

8